

平成28（2016）年度

F D研究部会活動報告書

第8号

徳島文理大学
徳島文理大学短期大学部

巻頭言

教育とは教え育てることで、望ましい知識・技能・規範などの学習を促進する意図的な働きかけの諸活動である（「広辞苑」）とされる。つまり、ある人間を望ましい姿に変化させるために、身心両面にわたって、知識の啓発、技能の教授、人間性の涵養などを意図的、計画的に働きかけ、人間に内在する素質、能力を引き出し、発展・助長させることであり、教授、陶冶（とうや）、訓練、養育などの意味合いが含まれているという。また教育は、社会の持続と発展のために、個人または特定の機関が一定の価値を志向して未成熟な者をその社会に適応させる意識的な活動であるとの側面をもつことから、何をもって“望ましい”と考えるかによって、結果として社会統制の一翼を担うことにもなる。

一方、中央教育審議会における最近の議論では、今後の高等教育機関の役割・機能強化として大学については、「三つの方針」を踏まえた教育課程等の改善、学生の学習成果などの把握と可視化、組織的な教育体制の確立など、教員の教育へのさらなる傾注が求められてきており、大学院に関連して大学教員の能力形成の取り組み強化も謳われている。

この教育を担う教育者たる者、日々研鑽して自己啓発に努めねばならないところから、FDと称する組織的教育研修活動が義務化されている。当然、新たな知識・技法の導入も必要で、それぞれの領域に応じた有効な教育技法が提唱されている。ただ、昨今PBL（problem-based learning）やテュートリアル、アクティブ・ラーニングなどが声高に喧伝され、これらに絡まぬものは排他されるがごとき状況には違和感を覚える方も少なくない。専門分野や授業目的の多様性や、受講者側の能力や均一性の相違を踏まえると、その他諸々を全てひとくくりに論じることなど到底できようとは思えない。少なくとも、それぞれの学問領域でどのような教育技法・スタイルを活用するのが適切かを検討した後に、自らの工夫を加えて広められるべきであろう。

医歯薬学部では、モデル・コアカリキュラムそして共用試験（CBT，OSCE）が運用されるようになり、大学教育の均質化が図られかつ最低レベルが担保されつつある。その流れは他学部等にも敷衍し、いまや高等専門学校でも同様のシステムが施行されようとしている。一方で、これらの導入前から危惧されたことながら、教育の没個性化、独自性の埋没が問題となっている。また、国際認証と称して米国追随型の教育システムを志向する流れも依然強く、受講者の質的低下と相俟って混迷するに至っている。

実態はといえば、教育者個々人の情念・熱意、そして秘めたるマインドがどれほどに発揮されているか、実は今まさに学習者から厳しく問われている。いかなる講習や研修、研究授業も、教育者自らの授業の中に反映させなければ無意味であり、時間の無駄ともいえよう。こうした中で問われているのは、プロセスを見える化するだけでなく結果を出すことであり、それでいて即物的な評価にも耐えることである。しかし、単なる教育技法の受け売り学習だけでは、成長した教え子から先生が○×△○×△と言われたことが今も記憶に残っています、などと述懐される教育者冥利を享受できるとは到底思えない。

本学のFD事業は、所帯の小さいところでは一般的なWS（ワークショップ）形式での開催は少ないが、研修会や講習会の開催、授業評価アンケートの実施、研究授業、卒業生満足度評価アンケートの実施に至るまで多岐にわたっている。FD研究部部員、事務局の職員は総じて熱心であるが、一方その熱意が全学に広まり、個々の教員の意識にまで浸透しているかとなると、今なおいささか心もとなく感じる。折角の外部講師による講演会など、ICT利用により全教員が受講したと確認できるようなシステム作りも積極的に進めるべき時期にきていると思う。

本活動報告書は、年報として個々の活動実績、年次的進歩の足跡を示す資料であるが、併せてこの1年間の自己評価が述べられている。その理念と思いが遍く教員に伝わることを念じて、巻頭のご挨拶とする。

F D 研究部会活動報告書

目 次

1. はじめに	1
2. F D 活動の内容	1
3. 研修会・講演会	2
4. 全学授業評価アンケート	5
5. 研究授業	6
6. 卒業生満足度評価アンケート	11
7. I C T 利用による運営改善	14
8. おわりに	18
9. 用語解説	19
10. 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D 研究部会内規	20
(資料編)	
1. F D 研究部会会議	21
2. 研修会・講演会	23
3. 全学授業評価アンケート	27
4. 研究授業	37
5. 卒業生満足度評価アンケート	41

1. はじめに

「徳島文理大学 FD 研究部会」は、学士課程の FD 義務化を受け、全学的 FD 活動の推進・支援を目的として平成 19 年 12 月に設立された全学委員会の一つである。設立以降の活動の詳細は、「FD 研究部会活動報告書」（平成 22 年 5 月創刊、以降年次刊行）にまとめられている。本報告書（第 8 号）は、平成 28 年度（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）の活動成果抄録である。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部の FD 研究部員までお寄せいただければ幸いである。

2. FD 活動の内容

今年度は、講演会・研修会に関して、いくつかの新たな取り組みを実施した。その一つが、新任教員を対象に、年度当初に 5 日間にわたって実施した「新任・昇任教員研修会」である。土曜日を実施日としたため、関係教職員各位には並々ならぬ負担を強いたが、対象教員の全員参加を義務化したものであり、本学としては両キャンパスを通じて初の試みであった。この試みは有意義なものであったことから、事後アンケートを踏まえ、来年度以降も改善を重ねて、より実質的な研修にしたいと考えている。

そのほか、研修会の講師を学内教員が担当したことがあげられる。このことにより、学内における自己点検や自己改善を少しでも推進させることにつながったと考えている。また、研修会の一部を学外にも公開し、県外からの参加者を得たことも、学内の教職員の研修意識を向上させることに寄与したと考えている。今後も、学内外の双方からの講師をうまく連携させ、より効果的な研修プログラムの編成に努めていきたい。

今後の研修内容は、アクティブ・ラーニングを意識した研修、学内の様々なシステムを効果的に活用する方法や実践の研修が考えられる。また、FD と SD が一体となって受講できるようなインフォメーションや協力体制も構築していく必要がある。多様化していく学生に応じた授業や学生対応への支援に向け、ハード・ソフトの両面から何ができるか、何が必要かを常に検討していきたい。

前期・後期末実施の全学授業評価アンケートは、授業改善に関する学生のコメントを教員が次期以降にどのように活かしているか、また活かす努力を続けているかを、学生が知る機会のひとつである。詳細は担当項目に譲るが、全面的なシステムの改良を検討中である。また、グーグルのアプリケーションの一つである GAE が全学的に利用できるようになったことより、授業評価アンケートと併用してこの機能を生かし、個々の教員レベルで、より効果的な PDCA サイクルを構築していくことが期待される。

卒業生満足度評価アンケートは、本年度、全学的に Web を用いた方式に移行した。担当の FD 委員には、多大な負担とご援助を頂いたほか、情報センター等の関係部局にもご尽力いただいた。紙ベースのアンケートに比べて、一長一短はあるものの、実質的なよい成果が得られているものと感じている。

教員相互の授業参観(研究授業)は、例年同様、参加教職員数の伸び悩みが指摘された。本年度から実施の新任・昇任教員研修受講者に課している授業公開の趣旨が徹底しなかったこともその理由の一つとと思っている。新たな風をおこすためにも、インフォメーションの周知、授業参観のシステムも含め、検討・改善を行う必要がある。

来年度は、再来年度から移行予定の全学授業評価アンケートのシステム全面リニューアルの準備期間である。すべてのFD活動、また様々なシステムを連携して、より効果的な学生の資質を向上させる教育に向けて、支援ができるよう活動を推進したいと考えている。教職員各位の倍旧のご理解とご援助・ご協力をお願いする次第である。

3. 研修会・講演会

3-1 現状

FDとは、大学設置基準「(教育内容等の改善のための組織的な研修等)第二十五条の三 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」に規定されているとおり、大学が主体となって、授業内容の改善についての研修と研究を組織的に行うと同時に、授業方法の改善についての研修と研究を組織的に行うものである。

本年度実施したFD研修会・講演会(以下「研修会」)は、下記に示す(1)の通りである。これらは、『平成27年度FD研究部会活動報告書』において従来からの研修会等について指摘された改善点、すなわち「本学の教員を講師とする研修会を加える」「学外にも受講を呼びかける」の2点を踏まえて企画・実施したものである。

なお、一覧表の中の香川Cは香川キャンパスを、徳島Cは徳島キャンパスを表している。また、(2)にはSPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)主催の研修会、(3)には今年度より実施した新任・昇任教員研修会を示す。

(1) 学内研修会

第1回「学生を眠らせない講義法のコツ」(SPOD遠隔配信)

講師：小林 直人(愛媛大学教育企画室 教授)

日時：平成28年8月19日(金)10:00~12:00

参加者：香川C 13名、徳島C 11名、合計 24名

第2回「講義のための話し方入門」(SPOD遠隔配信)

講師：小林 直人(愛媛大学教育企画室 教授)

飯島永津子(愛媛大学医学部 教育協力者)

日時：平成28年8月19日(金)15:30~17:30

参加者：香川C 13名、徳島C 7名、合計 20名

第3回「大人数講義法の基本」(SPOD遠隔配信)

講師：小林 直人(愛媛大学教育企画室 教授)

日時：平成28年9月6日(火)13:00~15:00

参加者：香川C 6名、徳島C 6名、合計 12名

第4回「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント」

講師：杉田 郁代(高知大学大学教育創造センター特任准教授)(SPOD講師派遣プログラム)

日時：平成28年9月8日(木)13:30~15:30

参加者：学内受講者香川C 30名、徳島C 22名、合計 52名

学外受講者 2名(香川県立医療大学) 総計 54名

第5回「Google Apps for Education 入門編 ～効率よく授業をしよう～」

講師：小林 郁典（本学理工学部 准教授）

日時：香川キャンパス 平成28年9月13日（火）10：00～12：00

徳島キャンパス 平成28年9月14日（水）10：00～12：00

参加者：香川C 16名、徳島C 25名、合計 41名

第6回「コーチング入門 ～学生のやる気を引き出すコツとは？～」

講師：谷 益美 (Officel23 早稲田大学ビジネススクール (MBA) 「ビジネスコーチング」非常勤講師)

日時：徳島キャンパス 平成29年2月27日（月）14：00～16：00

：香川キャンパス 平成29年2月28日（火）15：00～17：00

参加者：学内受講者香川C 41名、徳島C 44名、合計 85名

学外受講者 2名（聖カタリナ大学他）総計 87名

研修会の受講者数は減少傾向にあり、課題となっている。この傾向を改善し、本学のFDを意義あるものにするためには、少なくとも受講者だけにアンケートを取るのではなく、受講しなかった教員にもその理由を尋ねるなどの調査を行う必要があると考える。

そのような中、第4回および第5回の研修会は、比較的受講者数が多かった。近年、どの大学にも発達障害あるいは学習障害の学生が一定数いると言われている。教員はそのような現状も踏まえながら授業の改善に努めなければならない。しかし、その場合、教員は自己の視点だけに陥らないように自戒しなければならないが、その方策にはどのようなものがあるのか考える必要がある。第4回の「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント」はそのようなニーズに応えたものと言えよう。この研修会には学外からも受講者があった。一方、授業の改善や効率化にはデジタルツールの利用も有効である。第5回の「Google Apps for Education 入門編 ～効率よく授業をしよう～」は、どのようなものをどのように使うのかについて、具体的・実践的な説明があり、好評であった。

(2) 学外研修会（SPOD：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）

SPOD フォーラム 2016 「経験を学びに変える」

日時：平成28年8月24日（水）～8月26日（金）愛媛大学城北キャンパス

参加者：香川C 11名、徳島C 7名、合計 18名

(3) 新任・昇任教員研修会

第1回「徳島文理大学の研修について」 平成28年4月16日（土）

第2回「カリキュラム・プランニング」 平成28年4月23日（土）

第3回「シラバスのケーススタディ」 平成28年5月21日（土）

第4回「教育機器を活用した授業展開」 平成28年6月18日（土）

第5回「本学学生の特性をふまえたアクティブ・ラーニングの紹介と活用」
平成28年7月16日（土）

3-2 点検・評価

FD 研修会・講演会では、FDの意義や必要性を教員に啓蒙し、教員自体が変化することで、実際の授業を改善し、引いてはステークホルダーである学生にとって大きなメリットが得られることを目指している。

第1回～第5回の研修会のアンケート集約では、「満足したと思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人は、合わせて約9割であり、参加者に良い変化を起こしていることが分かる。

第1回～第3回のSPOD遠隔配信の研修会は、参加者が減少している。他方、第4回、第5回の研修会は、多数の参加者があり、好評であった。これは、モニター画面の視聴ではリアル感が少なく、やはり目前で講師が話す、または自らが参加して行なうワークショップ形式が、研修意欲や内容理解には有効に働いていることが窺える。これらを鑑み、第6回の「コーチング入門」では、講師に依頼し、2日間にわたり徳島キャンパスおよび香川キャンパスの両会場で、講演・ミニワークを含んだ研修会を開催することができた。今後は、さらに事前予告の回数を増やして行い、開催内容をより魅力的なものとする事で、参加者をより増やす方策が望まれる。

現在、日程の制約などから参加出来なかった教員のために、本学では、学内ネットでの録画配信を行っている。これら録画視聴の効果を量るためには、アクセス数と併せて、視聴後のアンケートなどでフィードバックする事が今後必要であろう。

新任・昇任教員研修会についての、参加者からのアンケートでは、以下のような要望が回答された。

- ・土曜日に何度も研修を行うのは時間の調整が難しい。平日の開催も検討してほしい。
- ・1回の研修の時間を長くし、日数を減らしてほしい。
- ・アクティブ・ラーニングに関する研修をもっと増やしてほしい。

今後はこれを踏まえて、1回の研修時間を増やし回数を3回程度に減らす方向で考える。また、新任・昇任教員に最初何を学んでもらうか、もらいたいかの目標を明確にするとともに、今期の新任・昇任教員が知りたかったことをリサーチし、受講者の要望に沿った内容を提供して行くなどの工夫が必要である。

3-3 改善計画（改善点）

現状およびその点検・評価を踏まえて、以下のとおりの改善計画を考える。

- ①「本学の教員を講師とする研修会」を、学外参加者から得た知見を共有化するための研修会も含め、引き続き増やしていく。
- ②「学外にも受講を呼びかける研修会」を、引き続き増やしていく。
- ③「発達障害等の障害学生支援・配慮についての研修会」を、新たに実施する。
- ④「授業の改善や効率化に有効と考えられるデジタルツールの利用についての研修会」を、引き続き実施する。
- ⑤新任・昇任教員研修会を、「1回の研修時間を増やし回数を3回程度に減らす」「研修の目標を明確にする」「受講者の要望に沿った内容を提供する」という観点から改善し、実施する。
- ⑥「アクティブ・ラーニングに関する研修会」を、新たに実施する。なお、新任・昇任教員に限定しない研修会とする。
- ⑦「授業評価アンケートの項目・実施方法等についての研修会」を、全学授業評価アンケートの改善とアクションプランシートの周知徹底を目的に、新たに実施する。
- ⑧「卒業生満足度調査結果に基づく授業・学習環境改善のための研修会」を、卒業生満

足度調査の結果を教育改善に活かすことを目的に、新たに実施する。

⑨「特色ある教育・研究全学発表会」で優秀賞を得た主として教育に関する内容について、全学で共有化するための研修会を、新たに実施する。

⑩大学設置基準改正により平成 29 年 4 月 1 日から義務化される SD に対応するため、全学教職員を対象とした教育内容等改善のための研修会を、新たに実施する。

※SD の義務化

「大学は、その教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、職員（職員には、事務職員だけでなく、教員や技術職員を含む）を対象とした、必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けるほか、必要な取り組みを行うものとする。」

4. 全学授業評価アンケート

4-1 現状

本学ではハイブリッド授業評価アンケート方式を導入している。マークシート方式でアンケートを行い、その結果を電子化し、経年変化、全体平均との比較、クロス集計など結果の分析が可能となっている。また、各授業担当教員に、アンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降の授業に向けた対応を「アクションプランシート」として作成することを依頼している。記入は Web 上で行え、アンケート結果とアクションプランシートを合わせて学生に公開できるシステムになっている。

4-2 点検・評価

(1) アンケートの実施状況

平成 28 年度は、クォータを含む全期で実施した。実施期間は、第 1 クォータが 5 月 24 日から 6 月 4 日、前期と第 2 クォータが 7 月 12 日から 28 日、第 3 クォータが 11 月 11 日から 25 日、後期と第 4 クォータが平成 29 年 1 月 10 日から 27 日までである。

実施率は表 1 のようになっている。前期・後期とも 97～98% と高いが、わずかながら実施できていない科目もあり、今後、実施率 100% を目指したい。

表 1 授業評価アンケート実施状況（平成 28 年度）

	前期			後期		
	総科目数	実施科目数	実施率	総科目数	実施科目数	実施率
徳島 C	588	572	97.3%	513	500	97.5%
香川 C	303	295	97.4%	308	305	99.0%
全 体	891	867	97.3%	821	805	98.1%

(2) フィードバックの状況

教員によるアクションプランシートの作成は、表 2 のようになっている。アクション

プランシートが未記入の場合は、担当教員に記入を催促する対応をしている。一部連絡が伝わらないなどの問題により、前期の記入率がやや低調であったが、後期には改善している。引き続き、記入率 100%を目指したい。

表2 アクションプランシートの記入率（平成 28 年度）

	前期	後期
徳島C	84.9%	97.2%
香川C	93.6%	99.1%
全体	87.8%	98.0%

授業評価の集計結果とアクションプランシートの開示期間は、平成 27 年度後期のものが平成 28 年 4 月 1 日から平成 28 年 6 月 30 日まで、平成 28 年度前期のものが平成 28 年 10 月 18 日から平成 29 年 1 月 15 日までである。また、開示範囲は学内のみとし、キャンパス毎にパスワード付きの PDF 形式のファイルで、学内サーバーにより公開している。

4-3 改善計画（改善点）

授業評価アンケートは単に授業の良し悪しを評価するためのものではなく、先生方がアンケート結果を基に授業をより良いものに改善していくためのものである。学生の評価を真摯に受け止めるとともに、複数年の横断分析が可能なシステムを活用して、より分かりやすく効果的な授業に向けた改善の取り組みが進められることを期待したい。

今後さらに良い授業評価になるように、アンケート項目、実施時期、方法など、授業評価アンケートの改良に向け、議論を深めていきたいと考えている。

5. 研究授業

5-1 現状

「研究授業」は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部において実施しており、今年で 9 年目となる。平成 28 年度は、徳島キャンパスで 19 科目（前期 7 科目、後期 12 科目）、香川キャンパスで 9 科目（前期 3 科目（4 日）、後期 6 科目）、両キャンパスで合計 28 科目（29 日）の研究授業を実施した。各学期の実施回数は、各学部及び各学科の教員数及び講義数の実情を踏まえながら決定している。各学部及び各学科は「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」という 3 つのタイプから選び、実施した。

(1) 目的

「教員相互の授業参観型」は、研究授業開始当初より実施している。授業を参観することにより、授業改善のために参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かしていくことが目的である。各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上を目指しており、授業担当者の教授法に対し、悪い点を指摘するためのもの

ではない。

「目標設定型」は平成 24 年度より導入している。あらかじめ教授方法や授業運営上の改善点を設定し、定めた期間の中で調査・研究を行うものである。効果的な授業技術の掘り起こしとそれらの共有が主な目的となる。

「オープンプラスウィーク」は1週間の授業参観可能期間を設定することにより、教員が自由に参観しやすい環境を設けている。

(2) 実施方法

昨年度と同じく3つのタイプ「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンプラスウィーク」を設け、各学部及び学科に実施を依頼した。「教員相互による授業参観型」か「目標設定型」のどちらかを研究授業として選択し（両方実施も可能）、さらに希望する学部及び学科は「オープンプラスウィーク」も選択できるようにした。

「教員相互による授業参観型」の実施方法は、学期の始めに各学部及び学科の授業担当者として研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業を対象とする科目及び実施日を決める。実施科目と実施日についてはFD研究部会が情報をまとめ、事務局が「研究授業予定」一覧表を作成し、全学の教員に周知した。参観範囲は、所属学科に関係なくどの科目でも参観可能とした。研究授業の進行及び記録は授業協力者（あるいは学部、学科の評価・FD委員会）によって進められ、原則として1講時90分の内、授業開始から60分を授業参観とし、残りの30分を授業担当者、授業協力者及び授業参観者による意見交換会の時間とした（授業90分、意見交換20分の場合もある）。意見交換会では「(1) 目的」にある研究授業の主旨に基づき討議を行い、研究授業実施後2週間以内に別紙の様式（表1）に授業担当者と授業協力者（あるいは学部、学科の評価・FD委員会）により、研究授業記録を作成することとした。

表 1 研究授業 記録様式

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実施教室	
実施日時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対象学生 (授業形態)	()		
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観者数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目			
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

研究授業記録はFD 研究部員を通してFD 研究部会へ提出される。その他、「教員相互による授業参観型」は新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）も研究授業の対象としており、今年度も文学部から1科目（2日）が報告されている。

「目標設定型」は、授業技術の向上のためテーマや新しい取組み等を目標に挙げ、その目標を達成するために必要十分とされる実施期間を設定し、各学期始めに学内で公表する。その目標は期間内に達成可能なものを設定しなければならない。実施期間終了後は、代表者はすみやかに実施した取組みについて研究授業記録（表1）を作成し、FD 研究部会に提出する。

「オープncラスウィーク」は、ある一定期間に開講されている全講義を自由に聴講できる期間として設けたものである。対象となる科目の教員に対しては、期間中は講義室後部に椅子を設置し、ドアを解放する等、講義中に他の教員が自由に聴講できるような環境作りを心掛けた。聴講した教員は聴講回数及びコメント等をFD 研究部員へ報告し、その報告を研究授業記録としている。

5-2 点検・評価

「教員相互による授業参観型」は、平成20年度から全学的に始めた研究授業であり、9年目を迎えている。表2に、今年度と過去8年間の学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数の推移を示す。実施科目数はその年により変動があり、昨年度は33科目、今年度は28科目（29日）と減少した。減少の理由は、前期、後期ともに実施した学科が少なかったことによる。また、年間授業参観者数、1科目当たりの参観者数も減少傾向にあり、授業参観者数を増やす努力を重ねていきたい。

表2 学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数（名）の推移

年度	平成20	平成21		平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		
	2008	2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
年間研究授業実施数	26	21	9	17	12	16	16	17	16	11	17	4	15	15	18	10	18	
香川薬学	薬学科	28	24		14	14	32	25, 18	25, 22, 26	19, 25, 26	15	19		13	22	18	27	21
文学部	日本文学	9	9	8			9		9			9		9, 5	9			
	英語英米文学	1	3		4		2			3			4			2		
	文化財	3	3			26			5		23						5	
	宿泊セミナー						12		14		8		6			4, 5		
	学部内合計	13	15	8	4	26	21	2	19	9	11	23	15	4	14	9	11	5
理工学部	機械創造	6		8	10		7		6		4		2		5		4	
	電子情報		6			4			目標設定型		目標設定型		目標設定型		3		6	
	ナノ物質	6		10		6	4		4	5			目標設定型		目標設定型		目標設定型	
	臨床工学		8		11		2											
学部内合計	12	14	18	21	10	11	7	10	5	4		2		8		10		
薬学部	薬学科	10	5		7	5	7	8	5	2	7	4	7	7	未提出	未提出	未実施	4
人間生活学部	人間生活	6			5		2		1		2		2	3			3	
	食物栄養	3, 3	4, 3		3		4		4		2		1	4	2		1	
	心理	2, 3	5, 4		2		5		2		1		2	2	3	6	3	
	児童	4, 4	2, 3		6		5			1		2		2	5	1	1	
	メディアデザイン	4, 6	4		3		4		目標設定型		目標設定型		1		4		1	
	建築デザイン	4, 2	3		4		3		5		2		1	3	2		2	
学部内合計	41	28		23		12	11	11	6		9		9	17	12	8	10	
総合政策学部	総合政策	10	11	8	8	5	6	6	8	4	5	6		6	5	10	3	
音楽学部	音楽	13	3	4	2	3	3	4	3	3	0		目標設定型	0	2	1	3	
保健福祉部	臨床工学								8		6				5			
	診療放射線								7		5						0	
	人間福祉	4, 5	1	2	2	3	3	1	1		1				1		4	4
	理学療法					1	1	4	3		2			1	1	0	1	
	看護	6, 10	5	17	14	12	6	6	8	8	8	8	8	13	9	12	7	8
学部内合計								20	23	16	15	8	13	11	18	11	13	
短期大学部	保育	5	4													5		
	生活科学		5	4				3								7		
	商科	4			2		3										5	
	英語コミュニケーション				4		3											
	音楽			6		4		3										
学部内合計	9	9	10	6	7	8	6		目標設定型						12		5	
前・後期別参加者数	161	115	67	101	86	110	98	139	119	62	80	30	54	69	89	58	74	
年間参加者総人数	161		182		187		208		258		142		84		158		132	
1科目当たりの参加者数	6.2	5.5	7.4	5.9	7.2	6.9	6.1	8.2	7.4	5.6	4.7	7.5	3.8	4.6	4.9	5.8	4.1	

表3には、各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果を一部抜粋したもの示している。各学部及び学科から提出された報告書によれば、「Google Classroom を使った講義の試みで、基本的な使い方から、出席の取り方など工夫した使用方法まで見ることができ非常に興味深い講義であった。」との意見が挙げられた他、学科によっては「やや表が小さく読みづらいので大きく見やすいものにするとうい。」など、授業改善に向けられた意見も出されていた。今後も学生により良い授業を提供するために、教員でピアレビューを繰り返しながら授業改善の一助にしたいと考えている。

表3 各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

[教員相互による授業参観型] 授業参観者の意見 (研究授業報告書より一部抜粋：●好意的な意見 ■改善を提案する意見：全記録は別CD資料)
<p>(薬学部薬学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業準備・工夫は十分されていた。(配布資料も理解しやすい) ■説明と作業を交互に行うと集中力を維持できる。 <p>(香川薬学部薬学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図表を使って判りやすく説明している。 ●最後の復習テストは、当日のポイントの意識付けをしているのはたいへん良い。宿題も、当該授業の理解に役立っている。 ■教員が一方向的に言葉で話しているが、下を向いている学生もいて、学生がどの程度理解しているかは不明である。 ■学生は、教科書を読み込んで理解し頭に入れないと試験は通らないし、身につかない。学生の学習意欲や自己研鑽する学習努力が必要である。 <p>(文学部全学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学科あるいは担当教員の専門性などを織り込んだクイズをグループ形式で実施し、グループ形式にしたことで、学生同士での交流促進が図られていたと感じます。 <p>(文学部英語英米文化学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業を聞きながら、こういうふう読み解いていくのか、と、興味深く感じた。 ●話し方も、ところどころそこはかたないユーモアがあり、また、時々身近なことを例に出して学生に質問するなど、飽きさせない工夫がされていたと思う。 <p>(文学部文化財学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●撮影頂いた動画をもとに、今後の実習での振り返りにも活用できるし、学生が、自分たちで動画、静止画を撮影して文化財の記録を行う上で、大いなる刺激となった。 <p>(理工学部電子情報工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入部の多様性を意識させたことも、理解を深める効果があったと思う。 ●Google Classroom を使った講義の試みで、基本的な使い方から、出席の取り方など工夫した使用方法まで見ることができ非常に興味深い講義であった。 ●反転授業の具体例も見ることができ、参加教員への啓発という意味で有用であった。 <p>(理工学部機械創造工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スライドの文字も適度な大きさで見やすかった。

(人間生活学部人間生活学科)

- 一人一人の考えを引き出し、他の人の思いを受け止め、相手の考えの尊重など今回のダイヤモンドドラッキングの手法を用いたアクティブ・ラーニングはとても意義があると思う。

(人間生活学部心理学科)

- ビデオ教材の他、授業用の配布資料が充実していた。
- ロールプレイの後、受講生一人一人に感想・意見を求め、その都度教員からやや長めのコメントをしていたが、先に発言させてから、まとめの形でコメントする方法もあったのではないか。

(人間生活学部児童学科)

- 教材研究や学習意欲の工夫もよくされており、事前準備にかなり時間をかけたことがうかがわれた。
- 授業の進め方や準備に学ぶべき点が多かった。

(人間生活学部メディアデザイン学科)

- 内容と題材ともにわかりやすい。

(人間生活学部建築デザイン学科)

- 身近な上級生の設計作品を、CAD手法の解説に使ったことが参考になった。

(人間生活学部食物栄養学科)

- 本時の授業テーマに基づき、教科書・配布資料と併せて板書で詳細な内容を説明し、ノートに記録させる方法は、学生が常に授業に集中し、国試を意識した緊張感を持たせることができ、良い授業形態だと思われる。
- 小テストの採点后、間違いの多い問題を把握し、再度解説しても良いのではないかと考えられる。

(総合政策学部総合政策学科)

- 今までと違う相手とペアワークを行うという方法は、多くの人のあるテーマに関する意見を知ることになり、とても良いやり方だと思います。
- 学生の記述の進み具合を確認して時間配分をしておられ、素晴らしいと思います。

(音楽学部音楽学科)

- リズム、アクセントの表現や伝え方がわかりやすかった。

(保健福祉学部看護学科)

- 学んでほしい内容をクイズ形式でプリントしておくことでテーマがはっきりし、何を学ぶのかわかりやすかった。
- 授業目標は丁寧に示されており、到達目標も明確であった。
- やや表が小さく読みづらいので大きく見やすいものにするとよい。

(保健福祉学部人間福祉学科)

- 講義内容は、身近な例題からの説明で理解しやすくわかりやすい工夫がされている。
- 講義の中で図書館の利用を促し、自己学習意欲を促している。
- アクティブ・ラーニングをうまく取り入れられている。

(保健福祉部診療放射線学科)

参観者無し

(短期大学部商科)

- 学生に「考えさせる」ような取り組みないし講義の工夫が必要であるように見受けられた。

[目標設定型] 具体的効果 (研究授業報告書より一部抜粋)

(理工学部ナノ物質工学科)

目標：卒業研究に関する内容、目的を理解し説明する能力を身につける。

効果：卒業研究に対する意識を高める効果は顕著に見られた。また、例年よりも早く卒業研究に着手する学生が増加し、就職活動にも好影響をもたらしたと思われる。

昨年度からの検討課題であった参観教員の増加については今年度も同じ状況である。より多くの教員に参加してもらえよう研究授業の意義の啓蒙、啓発を推進していきたい。また、研究授業そのものの評価の方策について検討課題として上がっているが、このスタイルで研究授業を継続的に実施しながら、評価方法の検討は模索していくこととなった。

「目標設定型」と「オープncラスウィーク」は、研究授業開始当初より行われてきた「教員相互による授業参観型」のマンネリ化を改善するため新たな取り組みとして実施されてきた。「オープncラスウィーク」については、平成 23 年度に理工学部が試験的に取り入れ、その翌年から希望する学部は実施するようになった。しかし、試行期間を含め実施開始以来、これまで実施した学部及び学科は限られており、参加者数もごくわずかであった。そのため、今年度は意義と実施について考え直す必要性があり、研究授業の選択肢として取り上げるかどうかを検討されてきた。今年度は選択肢としては設けるとFD研究部会で決定したが、「目標設定型」は1件のみ、「オープncラスウィーク」は今年度の実施報告はなく、初めて実施なしとなった。

5-3 改善計画 (改善点)

基本的な実施方法については、次年度も引き続き、各学部及び学科がより適当であると考えられる研究授業の手法 (教員相互による授業参観型と目標設定型) を選択することが望ましいと考える。しかし、ここ近年から課題となっている研究授業への興味・関心、研究授業1科目あたりへの参観者数の増加についてはさらなる検討が必要である。そのために、全教員への周知のため毎学期始めにまとめている「研究授業予定」一覧表の中で、アクティブ・ラーニングを導入している科目が分かるように一部改善することを検討していきたい。事前にどのような手法で講義をおこなうのか把握することにより、各研究授業科目への興味と参加の動機付けになるのではと考えている。さらに、メールや電子掲示板での配信だけでなく、合同教授会などを通じて、いろいろな機会を通じて、研究授業の重要性と参加を呼び掛けていきたい。

オープncラスウィークは昨年度に続いて今年度も実施報告がなかったため、次年度にどのように扱うか、再度検討する必要がある。

6. 卒業生満足度評価アンケート

6-1 現状

本学では、卒業生満足度評価アンケートを平成 21 年度から継続的に実施している。

卒業生満足度評価アンケートは、学生が卒業時に、入学時から卒業までの期間における学生生活の振り返りをとおして、学生からの本学の教育に対する評価を受け、教育の充実と改善に資する資料を得ることを目的に行われ、外部への情報発信の役割も併せ持つものである。

卒業生満足度評価アンケートの評価項目は、『2012（平成 24）年度 FD 研究部会活動報告書』にその分析と課題提言が行われたことを踏まえ、平成 25 年度は調査項目を再検討し、教育方法が改善できるような観点の質問項目に変更され、『2013（平成 25）年度 FD 研究部会活動報告書』に結果と今後の検討課題が掲載された。平成 28 年度には、さらに調査項目を見直し、現行の「Ⅱ－6．宿題やレポートが多いと感じていましたか」について検討した。

その検討理由は、4 点ある。それは、「①現行の「Ⅱ－6 の質問項目の解釈と判断が難しいこと。」「②宿題が多いことが、良いとはいえないこと。」「③得点が高ければ、宿題やレポート提出が多いと感じ、負担であったと解釈できるし、宿題やレポート提出が多いと感じたけれども、大変学修になったとも解釈できること。」「④意味不明な宿題や、到達目標と無関係なレポート提出など闇雲に課しても学生の反感をかうことになりかねないこと。」である。

これに基づき、この項目を「Ⅱ－6．課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか」に変更した。さらに、大学生の私生活での支援が十分できているかを問うために大分類「Ⅲ．大学の施設および支援体制について」の項目として「Ⅲ－7．生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか」を追加した。また、「Ⅴ．総合評価」の項目に「Ⅴ－2．知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか」を追加した。以上の評価項目の改善により大学生活全般を網羅的に評価できる示唆が得られると考えている。

そして、最大の改善点は、全学部・学科で「ICT 技術を利用した回答方法」にしたことである。これは、「①全学生に紙媒体の調査用紙を配布して回答を依頼するために、回答依頼者である全学生を一か所に集めて実施することが難しいこと。」「②実施コストが高いこと。」への改善策の検討による。そのため、平成 26 年度から理工学部（機械創造工学科、電子情報工学科、ナノ物質工学科、臨床工学科）の 4 学科の卒業生に ICT 技術を利用した回答を試験的に実施し、パソコンやスマートフォンのブラウザから「卒業生満足度評価」に回答してもらうシステムを実験的に導入した。その結果、実施前の回答目標値（50%）を大きく上回る回答（平均 85%）が得られた。これは、ひとえに理工学部電子情報工学科小林研究室の学生有志によるシステム開発と開発環境に HTML5、JavaScript、PHP、MySQL が用いられたことが大きく功を奏したと評価できる。

その結果を踏まえて、平成 27 年度には、香川キャンパスの全学生に対して、ICT 技術を利用した回答をトライアル的に実施した。その結果、危惧されていた回答率の低下は無く、むしろ、学生達の本音を聴くことができるというメリットも見て取れた。そこで、平成 28 年度から、徳島文理大学（徳島キャンパスと香川キャンパス）の全ての学生に対して、ICT 技術を利用した Web 方式による回答方法を採用することにした。

採用に当たっては、パソコンのみならず、スマートフォンでも活用できるように理工学部電子情報工学科小林研究室に技術開発を依頼した。回答形式では、紙媒体と同様に

個人情報保護のため、誰が回答したものはわからないようにしたものが完成した。アンケート実施期間は、平成 29 年 2 月 1 日から 3 月 17 日までに設定し、卒業生がそれぞれ都合の良い日時に回答できるようにした。なお、各学部・学科の教員に依頼したことは、卒業生満足度評価アンケートを ICT を使用して回答するように何度か卒業生に呼びかけて頂くことだけで、あまり負担をかけないようにした。

これらのことによって、平成 28 年度の卒業生満足度評価アンケートは、全ての学生が、新しく改善した調査項目について ICT 技術を利用した Web 方式で回答することが実現した。そのため、調査方法による徳島キャンパスと香川キャンパスの違い、各学部・学科の違いがなくなり、同様の評価を行うことが可能になった。

今後のさらなる改善点は、ICT 技術を利用した回答方法によって、理工学部の一部の教員に過度な負担がかからないように配慮することである。

6-2 点検・評価

卒業生満足度評価アンケートは、1,060 人を対象に Web 方式にて行い、552 人から回答を得、回収率 52.1%であった。所属別の内訳は表 6 に示す通りである。

表 6 所属別アンケート回答状況

所属名	卒業者数	回答者数	回答率(%)
大学院・専攻科	32	7	21.9
人間生活学部	299	185	61.9
音楽学部	14	13	92.9
薬学部	75	25	33.3
文学部	52	37	71.1
理工学部	66	57	86.4
総合政策学部	96	14	14.6
香川薬学部	38	28	73.7
保健福祉学部	272	126	46.3
短期大学部	116	60	51.7
全体	1,060	552	52.1

全学全体の評価結果の概要を概観すると、最も高得点は、Ⅳ－４の「よき友と出会いましたか」（4.46 点）であり、例年と同様であった。次に高得点は、Ⅳ－１の「キャンパスは清潔でしたか」（4.28 点）、次に、Ⅳ－３の「頼りになる教員に出会えましたか」（4.21 点）であった。このことから、卒業生は学生時代に良き友と教員に出会い、清潔な環境で大学生活を送っていたことを評価していることが推察される。

一方、低得点は、新たに追加したⅤ－２の「知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか」（3.52 点）、次に、Ⅲ－７の「生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか」（3.61 点）であった。これらは FD 部会として気がかりなため質問項目として追加したものであり、その気がかりがそのまま低い評価として現われたと思われる。この低得点項目は、入試広報委員会や保健管理センタ

一、教務委員会など他委員会や組織体との連携によって改善に資するものと考えられる。卒業生満足度評価アンケートは、FD 委員会の一委員として活動しているものであるが、『FD 研究部会活動報告書』（冊子体）を全教員に配布しているため、教職員が一丸となって卒業生満足度評価アンケートの評価得点が高くなるよう、今後、各種関連委員会や組織体との連携強化が課題となる。

なお、資料編に、学部全体、短期大学部全体、大学院・専攻科全体に分けて数値とグラフを示しているのご高覧頂きたい。

6-3 改善計画（改善点）

(1) 「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進

卒業生満足度評価アンケートの本来の主旨を考えれば、卒業時期を迎えた学生の平常状態での本音の評価の声を聞く必要がある。平成 28 年度は、徳島キャンパスも香川キャンパスも、一律に ICT 技術（Web）を利用し、一定期間の中で、卒業予定者に回答をしてもらった。そのため、本音による生の評価の声を聞こえる回答が得られ、しかも比較検討による分析も可能になった。今後も、「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進を進めていこうと考える。ただし、コストと ID 付与など一部の教員の負担と手間も考慮しなければならないので、費用対効果の検討も必要となる。

(2) 卒業生満足度評価アンケート結果を教育環境や教育改善に活かすシステム構築

これまで平成 21 年度～平成 28 年度に渡り、7 年間卒業生満足度評価アンケートを行い、その結果をもとに、改善計画（改善点）をたて、卒業生満足度評価の方法論やシステムについて改善を行ってきた。そのことにより、教育環境や教育活動が少しずつ改善されてきているが、まだ十分とはいえない。

多大な費用とエネルギーを費やし実施してきた卒業生満足度評価アンケートから教育環境や教育改善に活かす事項が見出されたならば、今後は、その結果を活かすシステムの構築が課題となってくる。卒業生の満足度・不満足度を明らかにする単なるアンケートで終わっては意味がない。今後は、評価結果を活かして機能していくように、例えば、他委員会や組織体との情報共有や連携・協働など教育環境や教育改善に活かすシステム（仕組み）を構築していく時期にきている。

7. ICT 利用による運営改善

7-1 現状

(1) 研修会・講演会のビデオ配信

本研究部会独自の講師による研修会・講演会は、年に 2 回程度開催されている。これらは教職員が参加しやすい日を選択して実施しているが、都合により参加できない教職員も少なからず存在する。また、講演内容を後日改めて確認したいという要望もある。

そこで、平成 26 年度から、講演者の許諾を得て研修会・講演会の様子をビデオ撮影し、学内ネットワーク限定で教職員がその録画ビデオを学内のパソコンやスマートフォ

ン等の情報端末から都合の良いときにいつでも閲覧できるようにしている。平成 28 年は、熊本大学の鈴木克明教授による「インストラクショナルデザイン入門」の講演会等の内容をご本人の許可を得て、ビデオに録画し、学内限定で閲覧できるようにした。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://FD.bunri-u.ac.jp/videos/>

ビデオ配信は、原則として、講演会終了後約 1 週間から 1 年間ほど公開するよう部会で決められている。また、ビデオを再生するためには、教職員番号を入力するようにしている。ビデオ配信に関しては、「古いパソコンでは再生できない、学内ネットワーク限定だと不便だ」という要望・報告を受けており、これらは今後の検討課題である。

(2) 授業評価アンケート結果（アクションプランシート）の Web 公開

本学では全学的に学生による授業評価アンケートを実施している。各授業担当教員には、このアンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降のアクションプランの作成（われわれはこれをアクションプランシートと呼んでいる）を依頼している。

このアンケートをはじめたときは、授業担当教員の研究室の扉にアクションプランシートを一定期間掲示するように担当教員に依頼をしていた。この方法だと、閲覧する場合には学生が研究室の前まで出向く必要があるし、確実に掲示されているかどうかを本部会が把握することが困難であった。そこで、平成 24 年度から、学内のネットワークを利用して学生に対して学部別にまとめたアクションプランシートを公開した。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://FD.bunri-u.ac.jp/eval/>

アクションプランシートは、PDF 形式のファイルで公開されており、表示させるためにはパスワードの入力が必要である。学生には事前にメールでパスワードを通知し、所属キャンパスのものだけを閲覧できるようにしている。

表 7 に、昨年度前期と今年度前期に実施された授業評価アンケートのアクションプランシートの閲覧回数を示す。今年度は昨年度と比べて全体としては増加している。平成 27 年度までは、のべ閲覧数は年々減少傾向であったので良い傾向が見受けられた。この背景には、アクションプランシートを閲覧する働きかけ（メール配信）が有効であったと考えている。

今後も、学生が授業改善のきっかけとなり得る授業評価アンケートの結果にもっと興味を持つような仕掛けが必要なのかもしれない。

表7 アクションプランシート閲覧状況（平成28年度前期実施分）

キャンパス	学部専門／一般	のべ閲覧回数	
		H27年度前期	H28年度前期
徳島	一般総合（学部）	18	12
	一般総合（短期大学部）	4	0
	人間生活学部	52	50
	保健福祉学部	20	32
	総合政策学部	12	9
	音楽学部	0	3
	薬学部	31	28
	短期大学部	8	9
	非常勤講師担当	6	4
香川	一般総合（学部）	16	38
	保健福祉学部	26	25
	香川薬学部	59	38
	理工学部	32	55
	文学部	23	17
	非常勤講師担当	2	10
計		309	330

(3) 情報端末による卒業生満足度評価アンケートの実施

本学では全学的に卒業を迎えた学生による卒業生満足度評価アンケートを平成21年度から実施している。指摘されている課題として、回答依頼者を全員一ヶ所に集めて実施することが難しいことや、実施コストが高いことが挙げられている。これらの課題の解決を試みるために、平成26年度から理工学部の卒業生に対して、また、平成27年度からは香川キャンパス全体の卒業生に対して、紙媒体での回答ではなくパソコンやスマートフォンなどの情報端末を利用した回答ができるように、システムを開発した。この結果を踏まえ、平成28年度は、全学的に情報端末を利用して答えるようにした。

スマートフォンでの回答の場合、同一人物による複数回の回答を防ぐための仕掛けが必要である。これに関しては、学生が普段使用している学内ポータルサイトのログインIDとパスワードを活用した。ただし、紙媒体での場合と同様に、回答結果は誰が回答したものかわからないように処理している。また、アンケートの実施日を従来の学位記授与式（卒業式）当日ではなく、その日までの2週間程度を回答可能期間とした。学位記授与式当日の実施では、評価が高くなりがちであるとの推測も可能であるが、このような実施期間であれば、回答者は日常の雰囲気の中で回答することができ、より正確なものが得られると期待している。

一般に、スマートフォンなどでアンケートを実施した場合、回答率は悪くなると言われている。これまでにわれわれが他大学を調査した範囲であれば、大学における全学的

なアンケートでは、回答率が 20%程度にとどまるのが普通である。そこで、スマートフォンによる本アンケートでは、期間中に数回、メールや口頭による回答依頼を行った。

本システムを利用した場合の回答率などについては「6 卒業生満足度評価アンケート」で述べている。詳細な分析はこれからであるが、全体的な傾向として、学位記授与式の日回答するよりも事前に回答するものの方が、辛い評価になっている。この評価は、学生の本音でないかと考える。また、自由記述欄に要望を書いている件数も増えている。改善につなげるため、卒業生からのコメントや不満、要望などを多く得るためには、今回の新たな試みが有効なのかもしれない。

(4) 学習支援システムの普及

本学では、平成 27 年度から Google 社が教育機関向けに無料で公開している Google Apps for Education（平成 28 年 9 月から、「G Suite for Education」へ呼称変更）を導入した。このサービスには、文書作成や表計算のためのアプリの他に、アンケートを作成したり、講義で使用する資料や課題などの管理をしたりすることができるアプリも含まれている。これらのアプリを講義で活用すれば、今までよりも効率的な講義運営や質の高い教育ができることが期待されるので、本部会では、このサービスの本学での利用を推進している。

平成 27 年度には、理工学部電子情報工学科をはじめ、本学での利用および実証実験がいくつか試みられている。それらの正式な報告はまだないが、概ね良好な教育的効果が見受けられている。また、講義での利用について、学生からも好意的な感想が挙げられているようである。

平成 28 年度には、このサービスの普及を目指して、9 月 13 日に香川キャンパスで、9 月 14 日に徳島キャンパスで「Google Apps for Education 入門編～効率よく授業をしよう～」という研修会を開催した。香川キャンパスでは 16 名、徳島キャンパスでは 25 名の教職員が参加した。

7-2 点検・評価

ICT を利用して FD 活動の一部を効率良く運用することを試みた。システム導入のための人的・経済的コストは低くはないが、一度導入すれば効率よく FD 活動を支援できることがわかった。ただし、すべての活動に ICT を導入するのが良いということではなく、大幅に作業手順が変わらないような定型処理への導入が有効である。全国的に大規模大学において IR (Institutional Research) の導入が盛んである。本学も IR 導入を見据えた FD や教育活動における ICT 利用を今後もより推し進める必要があると考えている。

7-3 改善計画（改善点）

上記のような試みをより効果的なものにするには、本学教職員の ICT スキルの向上が不可欠である。そのため、新任・昇任教員研修の中での実習や、講習会、勉強会を次年度の活動に組み入れるよう計画を進めている。

8. おわりに

徳島文理大学 FD 研究部会では、平成 19 年 12 月の発足より、学生のより深い学びを促進するため、様々な授業改善活動の取り組みを推進・支援してきた。

幸いにも、多くの教職員の賛同とご支援・ご援助をいただくとともに、継続的に FD 活動に関わっていただける先生方も年々増加している。今後、すべての教職員に分かりやすく効果的な授業への改善活動へのご理解をいただき、様々な場面で自己の FD 活動を行っていただけるように、更なるプログラムの充実と啓蒙に取り組んでいきたいと考えている。また、学生にとっては、教員のみならず職員に接することも多く、教職員一丸となつての支援が不可欠であることはいままでもない。本年度の活動に対する皆様のご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げますとともに、来年度もより幅広い FD 活動を計画して進められるよう、教職員各位のより一層のご支援をお願いする次第である。

9. 用語解説

【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校との連携・協働によって、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある32の高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したもの。

【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したもの。

【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況を評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

10. 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D 研究部会内規

(設 置)

第1条 徳島文理大学教育開発機構設置要綱に基づき、本研究部会(以下「F D 研究部会」という。)を設置する。

(目 的)

第2条 全学的なF D活動を推進及び支援し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(調査研究事項)

第3条 F D研究部会は、次に掲げる事項を調査研究する。

1. F D研究部会の運営
2. F D活動に関する情報収集と提供
3. F D活動の企画・立案
4. F D活動実施計画の立案・実施
5. F D活動の評価
6. その他、F D研究部会が必要と認めた事項

(組 織)

第4条 F D研究部会は、次の委員をもって構成する。

1. 部会長 1名
2. 部員 各学部より1名、教育・研究支援グループより若干名

第5条 部会長及び部員の選任

1. 部会長は学長が任命する。
2. 部員は各学部長及び教務部長が学長に推薦し、学長が任命する。

第6条 部会長及び部員の退任

1. 部会長は、諸事情により退任する場合は学長に申し出なければならない。
2. 部員は、諸事情により退任する場合は各学部長あるいは教務部長に申し出なければならない。

(会 議)

第7条 部会の開催

1. 部会長は、原則として毎月1回部会を開催し、これを主宰する。
2. 部員は、部会長の招集に応じ部会に出席しなければならない。やむを得ない事情により欠席する場合は、代理の出席者を立てなければならない。

(任 期)

第8条 部会長及び部員の任期は原則2か年とし、再任を妨げない。

(事務局)

第9条 F D研究部会の事務は、教育・研究支援グループが担当する。

第10条 付則

本内規は、平成19年12月13日から施行する。

本内規は、平成20年12月2日から一部改正施行する。

本内規は、平成26年4月1日から一部改正施行する。

資料編

1	F D研究部会会議	21
1-1	平成28(2016)年度 F D研究部会部員一覧表	
1-2	平成28(2016)年度 F D研究部会会議	
1-3	平成28(2016)年度 F D研究部会議事録【別CD資料】	
2	研修会・講演会	23
2-1	平成28(2016)年度 研修会・講演会実施一覧(学内)	
2-2	平成28(2016)年度 研修会・講演会等参加一覧	
2-3	平成28(2016)年度 研修会・講演会プログラム及びアンケート【別CD資料】	
3	全学授業評価アンケート	27
3-1	平成28(2016)年度 全学授業評価アンケート	
3-2	平成28(2016)年度 前期・大学全体 集計結果	
3-3	平成28(2016)年度 前期・学部全体 集計結果	
3-4	平成28(2016)年度 前期・短期大学部全体 集計結果	
3-5	平成28(2016)年度 後期・大学全体 集計結果	
3-6	平成28(2016)年度 後期・学部全体 集計結果	
3-7	平成28(2016)年度 後期・短期大学部全体 集計結果	
3-8	「学生による授業評価アンケート」実施要領	
3-9	授業評価アンケート結果のフィードバックについて(お願い)	
3-10	アクションプランシート様式	
3-11	平成28(2016)年度 アクションプランシートデータ【別CD資料】	
4	研究授業	37
4-1	平成28(2016)年度 前期 研究授業一覧	
4-2	平成28(2016)年度 後期 研究授業一覧	
4-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	
4-4	研究授業(目標設定型)記録様式	
4-5	研究授業の記録【別CD資料】	
5	卒業生満足度評価アンケート	41
5-1	平成28(2016)年度 卒業生満足度評価アンケート	
5-2	平成28(2016)年度 大学全体 集計結果	
5-3	平成28(2016)年度 学部全体 集計結果	
5-4	平成28(2016)年度 短期大学部全体 集計結果	
5-5	平成28(2016)年度 大学院・専攻科全体 集計結果	
5-6	WebによるH28年度卒業生満足度評価アンケートの実施について	
5-7	平成28(2016)年度 学部別データ【別CD資料】	

平成 28(2016)年度 F D 研究部会部員一覽表

	氏 名	所 属
副 学 長	千田 彰一	
部 会 長	古田 昇	文学部
部 員	青野 透	総合政策学部
〃	宗野 真和	薬学部
〃	河口 雅子	人間生活学部
〃	森田 敏子	保健福祉学部(徳島 C)
〃	長弘 千恵	保健福祉学部(徳島 C)
〃	千葉さやか	音楽学部
〃	則包 光徳	短期大学部
〃	加藤 善久	香川薬学部
〃	上田 雅彦	保健福祉学部(香川 C)
〃	小林 郁典	理工学部
〃	近藤 政行	文学部
事 務 局	新見 延安	教育・研究支援 G(徳島 C)
〃	藤本 桂子	〃
〃	竹本 恵一	教育・研究支援 G(香川 C)

平成 28(2016)年度 FD 研究部会会議

回数	日時	会場
第 81 回 FD 研究部会	平成 28 年 4 月 22 日(金) 15:00~17:00	徳島キャンパス 23 号館 1 階会議室
第 82 回 FD 研究部会	平成 28 年 5 月 23 日(月) 16:30~17:30	テレビ会議
第 83 回 FD 研究部会	平成 28 年 6 月 28 日(火) 16:30~17:30	テレビ会議
第 84 回 FD 研究部会	平成 28 年 7 月 25 日(月) 16:30~17:30	テレビ会議
第 85 回 FD 研究部会	平成 28 年 9 月 27 日(火) 16:30~17:30	テレビ会議
第 86 回 FD 研究部会	平成 28 年 10 月 27 日(木) 16:30~17:30	テレビ会議
第 87 回 FD 研究部会	平成 28 年 12 月 1 日(木) 16:30~17:30	テレビ会議
第 88 回 FD 研究部会	平成 29 年 1 月 26 日(木) 16:30~17:30	テレビ会議
第 89 回 FD 研究部会	平成 29 年 3 月 8 日(水) 10:00~11:00	香川キャンパス 管理棟 2 階学園長室

平成 28(2016) 年度 研修会・講演会実施一覧(学内)

- ①第 1 回 SD/FD 研修会・講演会 (SPOD 遠隔配信)
 日時：平成 28 年 8 月 19 日 (金) 10:00～12:00
 演題：「学生を眠らせない講義法のコツ」
 講師：小林 直人 (愛媛大学教育企画室 教授)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 11名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 13名参加
- ②第 2 回 SD/FD 研修会・講演会 (SPOD 遠隔配信)
 日時：平成 28 年 8 月 19 日 (金) 15:30～17:30
 演題：「講義のための話し方入門」
 講師：小林 直人 (愛媛大学教育企画室 教授)
 飯島永津子 (愛媛大学医学部教育協力者)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 7名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 13名参加
- ③第 3 回 SD/FD 研修会・講演会 (SPOD 遠隔配信)
 日時：平成 28 年 9 月 6 日 (火) 13:00～15:00
 演題：「大人数講義法の基本」
 講師：小林 直人 (愛媛大学教育企画室 教授)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 6名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 6名参加
- ④第 4 回 SD/FD 研修会・講演会
 (SPOD 内講師派遣プログラム：香川 C から徳島 C へ遠隔配信)
 日時：平成 28 年 9 月 8 日 (木) 13:30～15:30
 演題：「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント」
 講師：杉田 郁代 (高知大学大学教育創造センター 特任准教授)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 22名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 30名参加
 学外参加者 2名 (香川県立医療大学)
- ⑤第 5 回 SD/FD 研修会・講演会
 日時：香川キャンパス 平成 28 年 9 月 13 日 (火) 10:00～12:00
 徳島キャンパス 平成 28 年 9 月 14 日 (水) 10:00～12:00
 演題：「Google Apps for Education 入門編 ～効率よく授業をしよう～」
 講師：小林 郁典 (本学理工学部 准教授)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 25名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 16名参加
- ⑥第 6 回 SD/FD 研修会・講演会
 日時：徳島キャンパス 平成 29 年 2 月 27 日 (月) 14:00～16:00
 香川キャンパス 平成 29 年 2 月 28 日 (火) 15:00～17:00
 演題：「コーチング入門～学生のやる気を引き出すコツとは？」
 講師：谷 益美 (Office 123 早稲田大学ビジネススクール (MBA) 非常勤講師)
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 44名参加
 香川キャンパス 図書館3階AVホール 41名参加
 学外参加者 2名 (聖カタリナ大学他)

平成 28(2016)年度 研修会・講演会等参加一覧

①SPOD研修会・フォーラム等参加

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成28年 5月9日(月) ～11日(水)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修 (レベル I)	SPOD 高知大学	高知大学	情報センター 松井 康 (徳島キャンパス) 総務部 田村 友莉香 教務部 堀尾 雪乃 学生部 山下 真妃
平成28年 5月26日(木) ～28日(土)	平成28年度第1回 次世代養成ゼミナールSD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 就職支援部 板東 博士
平成28年 7月2日(土) ～3日(日)	第26回 授業デザインワークショップ	SPOD 愛媛大学	いまばり 湯ノ浦ハイツ	保健福祉学部 赤澤 直紀 芥川 知彰 香川薬学科 池田 博昭
平成28年 7月21日(木) ～23日(土)	平成28年度第2回 次世代養成ゼミナールSD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 就職支援部 板東 博士
平成28年 8月19日(金)	SPOD【遠隔配信】 学生を眠らせない講義法のコツ	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 キ ャンパス	(徳島キャンパス) 教職員11名 (香川キャンパス) 教職員13名
平成28年 8月19日(金)	SPOD【遠隔配信】 講義のための話し方入門	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 キ ャンパス	(徳島キャンパス) 教職員 7名 (香川キャンパス) 教職員13名
平成28年 8月24日(水) ～26日(金)	SPODフォーラム2016	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	保健福祉学部 茅田羅 勝義 薬学部 宗野 真和 理工学部 小林 郁典 三好 真千 水野 貴之 竹本 恵一 (徳島キャンパス) 総務部 藤巻 晃 教務部 藤本 正巳 堀尾 雪乃 中山 多佳子 情報センター 松下 宗孝

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
				(香川キャンパス) 総務部 近藤 陽子 梶尾 桂子 教務部 田中 裕子 学生部 福田 トモコ 樫野 仁美 就職支援部 遠藤 真由美 紫藤 容子
平成28年 8月30日(火) ～31日(水)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	SPOD 高知大学	高知大学	保健福祉学部 藤田 益伸 宮原 和沙
平成28年 8月31日(水)～ 9月2日(金)	第27回授業デザイン ワークショップ	SPOD 高知大学	愛媛大学	香川薬学部 小原 一朗 森川 雅行
平成28年 9月6日(火)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方-	SPOD 高知大学	高知大学	保健福祉学部 宮原 和沙
平成28年 9月6日(火)	はじめてみよう！ アクティブ・ラーニング	SPOD 高知大学	高知大学	保健福祉学部 宮原 和沙
平成28年 9月6日(火)	SPOD【遠隔配信】 大人数講義法の基本	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 キ ャンパス	(徳島キャンパス) 教職員 6名 (香川キャンパス) 教職員 6名
平成28年 9月7日(水)	グループワークの技法	SPOD 高知大学	高知大学	保健福祉学部 宮原 和沙
平成28年 9月8日(木)	SPOD講師派遣 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 香川キャンパス	(徳島キャンパス) 教職員22名 (香川キャンパス) 教職員30名
平成28年 9月15日(木) ～16日(金)	平成28年度「よりよい授業のためFDワークショップ」	SPOD 香川大学	休暇村 讃岐五色台 (坂出市)	香川薬学部 山田 麻紀
平成28年 9月27日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニング- 協同学習・教え合いの技法編	SPOD 香川大学	香川大学	保健福祉学部 上田 伊佐子
平成28年 10月27日(木) ～29日(土)	平成28年度第3回 次世代養成ゼミナールSD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 就職支援部 板東 博士
平成28年 10月31日(月)	SPOD講師派遣 大学組織を理解する	SPOD 高知大学	高知大学	理工学部 佐藤 一石
平成28年 11月17日(木) ～18日(金)	平成28年度大学人・社会人としての 基礎養成プログラム研修(レベル I)	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 総務部 半田 加奈 教務部 鎌倉 法子

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成28年 12月27日(火)	平成28年度全学FD推進 プログラム大学教育カンファレンス in徳島	徳島大学	徳島大学	理工学部 小林 郁典 (徳島キャンパス) 教務部 新見 延安 総務部 藤巻 晃
平成29年 1月19日(木) ～20日(金)	平成28年度第4回 次世代養成ゼミナールSD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 就職支援部 板東 博士
平成29年 1月21日(土)	京都FDer塾×大学教育パワーア ップセミナー	公益財団法人 大学コンソーシ アム京都	キャンパスプラザ 京都	総合政策学部 橋本 誠志
平成29年 1月24日(火)	AP事業成果報告会 「授業外学習時間の確保、人間 力・社会人の可視化を目指して」	阿南工業高等 専門学校	あわぎんホール	理工学部 小林 郁典
平成29年 2月27日(月)	平成28年度 SD/FD研修会・講演会 コーチング入門～学生のやる気を 引き出すコツとは？～	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島キャンパス	(徳島キャンパス) 教職員44名
平成29年 2月28日(火)	平成28年度 SD/FD研修会・講演会 コーチング入門～学生のやる気を 引き出すコツとは？～	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 香川キャンパス	(香川キャンパス) 教職員41名
平成29年 3月4日(土) ～5日(日)	2016年度 第22回FDフォーラム	公益財団法人 大学コンソーシ アム京都	京都コンサートホ ール 京都府立大学下 鴨キャンパス	保健福祉学部 宮原 和沙 理工学部 佐々木 和昭 竹本 恵一 文学部 篠田 裕
平成29年 3月19日(日) ～20日(月)	第23回大学教育研究 フォーラム	京都大学高等 教育研究開発 推進センター	京都大学 吉田キャンパス	文学部 古田 昇 (徳島キャンパス) 総務部 藤巻 晃

②SPOD会議参加一覧表

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成28年 10月21日	第1回T-SPOD会議	SPOD 徳島大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 教務部 新見 延安 総務部 藤巻 晃
平成29年 3月30日(木)	平成28年度 「四国地区大学教育能力開 発ネットワーク」 総会及びFD/SD分科会	SPOD	愛媛大学	学長 桐野 豊 (香川キャンパス) 教務部 竹本 恵一 就職支援部 板東 博士

平成 28(2016)年度 全学授業評価アンケート

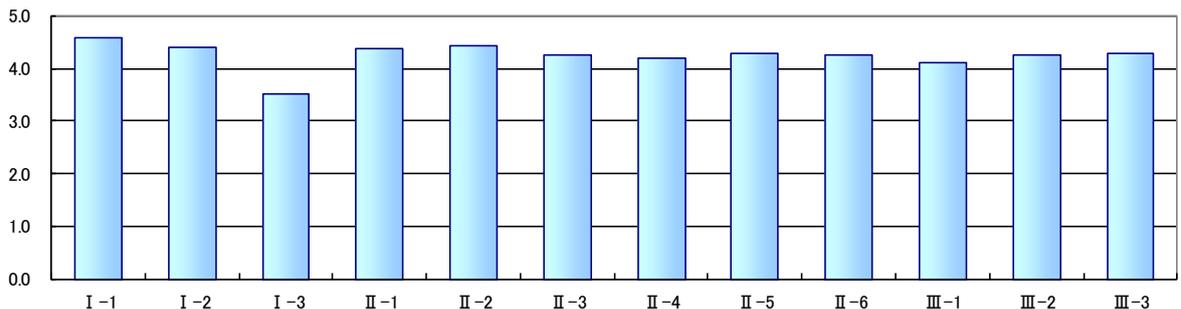
アンケート 実施期間	<p>(第1クォーター) 平成28年 5月24日(火) ～ 6月 4日(土)</p> <p>(前期・第2クォーター) 平成28年 7月12日(火) ～ 7月28日(木)</p> <p>(第3クォーター) 平成28年11月11日(金) ～ 11月25日(金)</p> <p>(後期・第4クォーター) 平成29年 1月10日(火) ～ 1月27日(金)</p>
アンケート 実施率	<p>(前期) 実施率 97.3% 総科目数 891 実施科目数 867</p> <p>(後期) 実施率 98.1% 総科目数 821 実施科目数 805</p>
アクションプランシート 記入期間	<p>(前期) 平成28年 9月 8日(木) ～ 9月30日(金)</p> <p>(後期) 平成28年 3月 2日(木) ～ 3月16日(木)</p>
アクションプランシート 記入率	<p>(前期) 記入率 87.8% 徳島C 84.9% 香川C 93.6%</p> <p>(後期) 記入率 98.0% 徳島C 97.2% 香川C 99.1%</p>
アンケート 公開期間	<p>(前期) 平成28年 10月18日(火) ～ 平成29年 1月15日(日)</p> <p>(後期) 平成29年 4月 3日(月) ～ 平成29年 6月30日(金)</p>

受講者数	39,542
回答者数	33,730

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.59	22,942 68.3%	8,218 24.4%	1,908 5.7%	387 1.2%	158 0.5%	33,613	117
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.42	17,926 53.3%	12,504 37.2%	2,690 8.0%	369 1.1%	160 0.5%	33,649	81
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.51	8,858 26.5%	9,493 28.4%	8,258 24.7%	3,443 10.3%	3,416 10.2%	33,468	262
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.37	17,643 52.5%	11,383 33.9%	4,030 12.0%	328 1.0%	210 0.6%	33,594	136
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.43	19,250 57.2%	10,567 31.4%	3,039 9.0%	487 1.4%	288 0.9%	33,631	99
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.27	17,313 51.5%	10,517 31.3%	3,892 11.6%	1,293 3.8%	611 1.8%	33,626	104
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.20	16,037 47.7%	11,006 32.8%	4,491 13.4%	1,390 4.1%	671 2.0%	33,595	135
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.29	16,647 49.8%	11,176 33.5%	4,425 13.2%	791 2.4%	364 1.1%	33,403	327
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.27	17,012 50.7%	10,653 31.8%	4,367 13.0%	956 2.8%	556 1.7%	33,544	186
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.10	12,728 37.9%	13,871 41.3%	5,116 15.3%	1,244 3.7%	588 1.8%	33,547	183
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.24	15,536 46.4%	12,359 36.9%	4,281 12.8%	854 2.5%	484 1.4%	33,514	216
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.30	16,946 50.6%	11,304 33.8%	3,944 11.8%	781 2.3%	491 1.5%	33,466	264
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			50.1%	26.5%	20.6%	0.9%	2.0%	461	33,269
2			39.5%	29.4%	28.0%	1.0%	2.0%	296	33,434
3			39.9%	30.2%	26.8%	0.3%	2.7%	291	33,439

全体平均

□全体平均



2016年度前期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

集計単位	学部全体
------	------

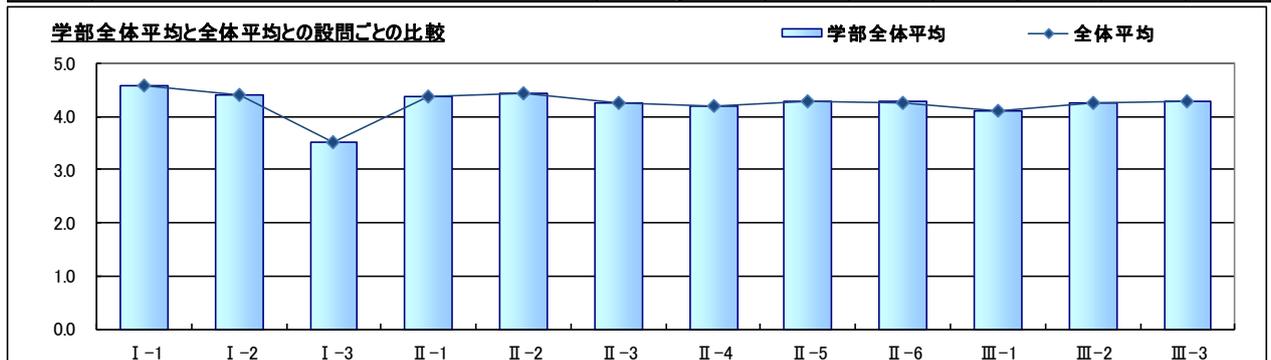
受講者数	35,918
回答者数	30,620

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.60	20,934 68.6%	7,425 24.3%	1,674 5.5%	339 1.1%	139 0.5%	30,511	109
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.42	16,313 53.4%	11,328 37.1%	2,428 7.9%	332 1.1%	146 0.5%	30,547	73
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.51	8,084 26.6%	8,654 28.5%	7,450 24.5%	3,090 10.2%	3,094 10.2%	30,372	248

II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.37	16,055 52.6%	10,384 34.0%	3,568 11.7%	299 1.0%	193 0.6%	30,499	121
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.42	17,392 57.0%	9,663 31.7%	2,762 9.0%	448 1.5%	265 0.9%	30,530	90
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.27	15,659 51.3%	9,609 31.5%	3,519 11.5%	1,182 3.9%	553 1.8%	30,522	98
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.20	14,496 47.5%	10,044 32.9%	4,092 13.4%	1,263 4.1%	603 2.0%	30,498	122
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.28	14,967 49.4%	10,231 33.8%	4,054 13.4%	728 2.4%	325 1.1%	30,305	315
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.27	15,465 50.8%	9,675 31.8%	3,929 12.9%	874 2.9%	508 1.7%	30,451	169

III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.10	11,490 37.7%	12,639 41.5%	4,630 15.2%	1,144 3.8%	541 1.8%	30,444	176
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.24	14,107 46.4%	11,219 36.9%	3,865 12.7%	785 2.6%	439 1.4%	30,415	205
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.30	15,357 50.6%	10,301 33.9%	3,560 11.7%	711 2.3%	446 1.5%	30,375	245

IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			44.6%	27.8%	24.7%	0.6%	2.2%	316	30,304
2			39.2%	29.0%	28.6%	1.2%	2.0%	255	30,365
3			39.7%	29.4%	27.4%	0.4%	3.2%	252	30,368

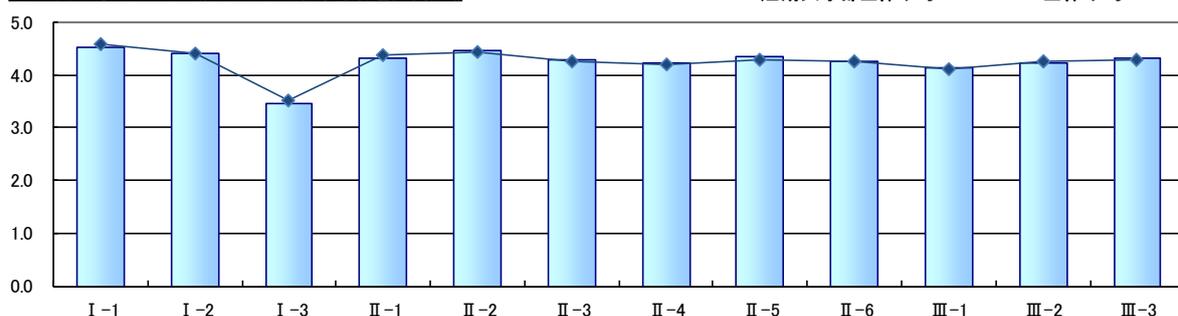


集計単位	短期大学部全体
------	---------

受講者数	3,624
回答者数	3,110

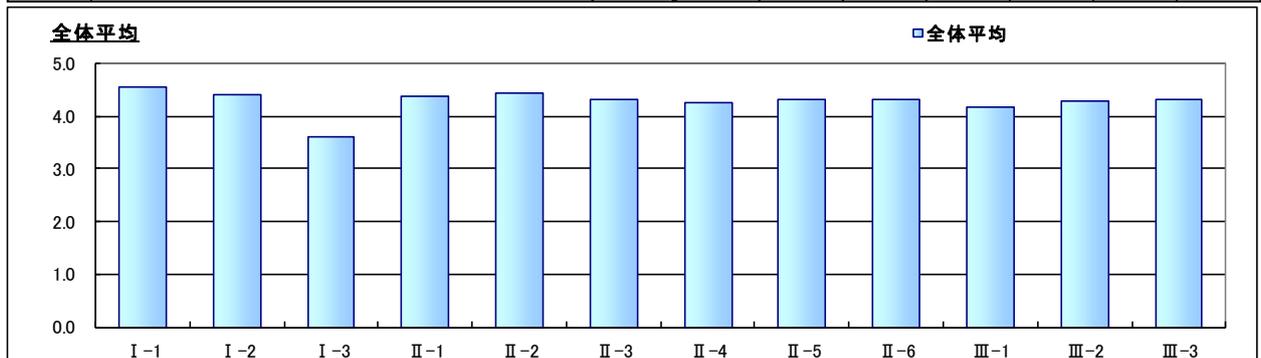
I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.52	2,008 64.7%	793 25.6%	234 7.5%	48 1.5%	19 0.6%	3,102	8
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.40	1,613 52.0%	1,176 37.9%	262 8.4%	37 1.2%	14 0.5%	3,102	8
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.45	774 25.0%	839 27.1%	808 26.1%	353 11.4%	322 10.4%	3,096	14
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.33	1,588 51.3%	999 32.3%	462 14.9%	29 0.9%	17 0.5%	3,095	15
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.46	1,858 59.9%	904 29.2%	277 8.9%	39 1.3%	23 0.7%	3,101	9
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.29	1,654 53.3%	908 29.3%	373 12.0%	111 3.6%	58 1.9%	3,104	6
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.22	1,541 49.8%	962 31.1%	399 12.9%	127 4.1%	68 2.2%	3,097	13
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.34	1,680 54.2%	945 30.5%	371 12.0%	63 2.0%	39 1.3%	3,098	12
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.26	1,547 50.0%	978 31.6%	438 14.2%	82 2.7%	48 1.6%	3,093	17
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.13	1,238 39.9%	1,232 39.7%	486 15.7%	100 3.2%	47 1.5%	3,103	7
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.24	1,429 46.1%	1,140 36.8%	416 13.4%	69 2.2%	45 1.5%	3,099	11
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.30	1,589 51.4%	1,003 32.4%	384 12.4%	70 2.3%	45 1.5%	3,091	19
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			62.1%	23.4%	11.7%	1.4%	1.4%	145	2,965
2			41.5%	31.7%	24.4%	0.0%	2.4%	41	3,069
3			41.0%	35.9%	23.1%	0.0%	0.0%	39	3,071

短期大学部全体平均と全体平均との設問ごとの比較



受講者数	34,785
回答者数	28,553

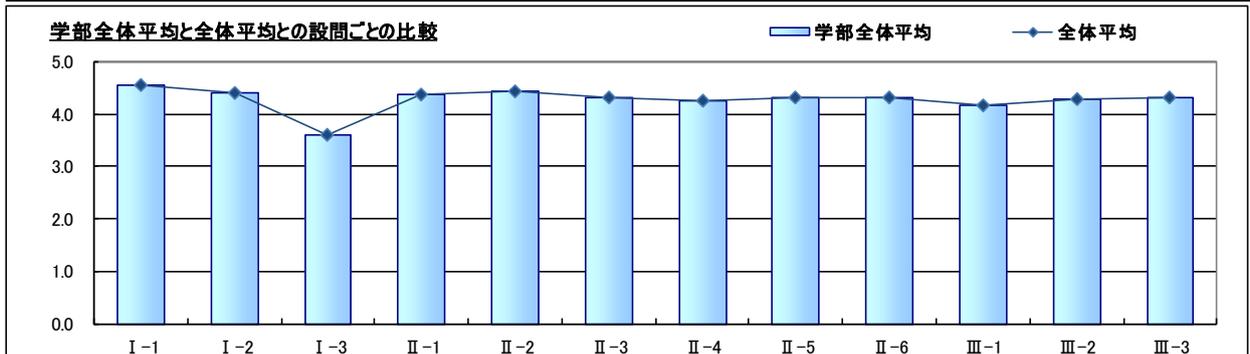
I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.55	18,555 65.2%	7,716 27.1%	1,729 6.1%	336 1.2%	128 0.4%	28,464	89
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.41	14,951 52.5%	10,834 38.0%	2,243 7.9%	305 1.1%	160 0.6%	28,493	60
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.61	8,192 28.8%	8,640 30.4%	6,519 22.9%	2,394 8.4%	2,665 9.4%	28,410	143
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.39	15,329 53.9%	9,507 33.4%	3,139 11.0%	272 1.0%	214 0.8%	28,461	92
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.44	16,416 57.6%	9,072 31.8%	2,411 8.5%	360 1.3%	231 0.8%	28,490	63
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.33	15,233 53.5%	9,013 31.6%	3,043 10.7%	793 2.8%	406 1.4%	28,488	65
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.26	14,144 49.7%	9,474 33.3%	3,386 11.9%	988 3.5%	488 1.7%	28,480	73
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.31	14,472 51.0%	9,507 33.5%	3,439 12.1%	658 2.3%	285 1.0%	28,361	192
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.32	14,883 52.4%	9,170 32.3%	3,342 11.8%	686 2.4%	336 1.2%	28,417	136
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.16	11,329 39.9%	11,895 41.9%	3,937 13.9%	865 3.0%	393 1.4%	28,419	134
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.28	13,577 47.8%	10,451 36.8%	3,454 12.2%	575 2.0%	353 1.2%	28,410	143
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.33	14,730 51.9%	9,587 33.8%	3,107 10.9%	600 2.1%	356 1.3%	28,380	173
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			43.4%	31.7%	22.4%	1.0%	1.5%	205	28,348
2			41.9%	30.8%	24.4%	1.7%	1.2%	172	28,381
3			42.3%	32.1%	23.7%	0.6%	1.3%	156	28,397



集計単位	学部全体
------	------

受講者数	31,592
回答者数	25,944

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.56	16,964 65.6%	6,948 26.9%	1,551 6.0%	283 1.1%	115 0.4%	25,861	83
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.41	13,646 52.7%	9,782 37.8%	2,034 7.9%	283 1.1%	147 0.6%	25,892	52
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.60	7,452 28.9%	7,832 30.3%	5,886 22.8%	2,159 8.4%	2,482 9.6%	25,811	133
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.39	13,951 53.9%	8,651 33.5%	2,815 10.9%	249 1.0%	194 0.8%	25,860	84
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.44	14,855 57.4%	8,279 32.0%	2,205 8.5%	336 1.3%	216 0.8%	25,891	53
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.32	13,779 53.2%	8,214 31.7%	2,789 10.8%	730 2.8%	375 1.4%	25,887	57
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.25	12,812 49.5%	8,619 33.3%	3,090 11.9%	910 3.5%	449 1.7%	25,880	64
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.31	13,047 50.6%	8,673 33.7%	3,172 12.3%	605 2.3%	268 1.0%	25,765	179
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.32	13,522 52.4%	8,341 32.3%	3,026 11.7%	621 2.4%	316 1.2%	25,826	118
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.15	10,243 39.7%	10,800 41.8%	3,611 14.0%	807 3.1%	357 1.4%	25,818	126
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.28	12,323 47.7%	9,496 36.8%	3,138 12.2%	528 2.0%	326 1.3%	25,811	133
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.33	13,346 51.8%	8,722 33.8%	2,830 11.0%	557 2.2%	329 1.3%	25,784	160
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			42.0%	33.0%	22.2%	1.1%	1.7%	176	25,768
2			41.2%	32.4%	23.0%	2.0%	1.4%	148	25,796
3			41.7%	33.3%	22.7%	0.8%	1.5%	132	25,812



集計単位	短期大学部全体
------	---------

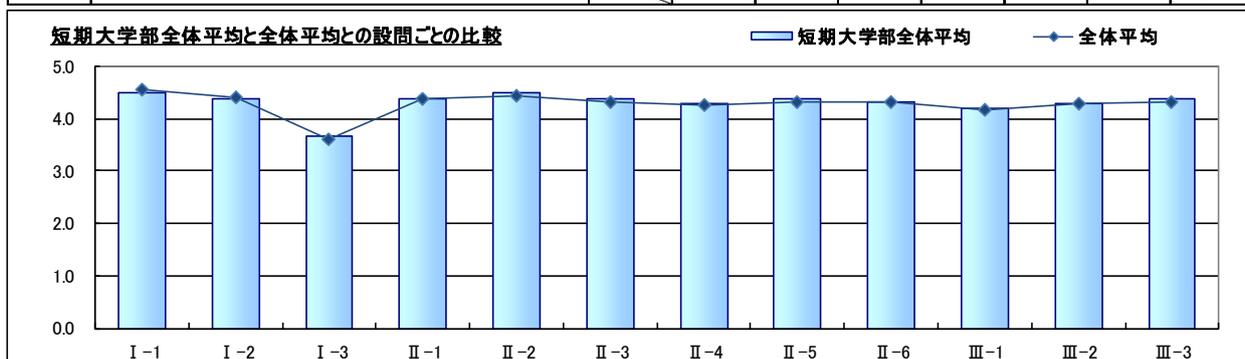
受講者数	3,193
回答者数	2,609

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.49	1,591 61.1%	768 29.5%	178 6.8%	53 2.0%	13 0.5%	2,603	6
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.39	1,305 50.2%	1,052 40.4%	209 8.0%	22 0.8%	13 0.5%	2,601	8
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.65	740 28.5%	808 31.1%	633 24.4%	235 9.0%	183 7.0%	2,599	10

II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.36	1,378 53.0%	856 32.9%	324 12.5%	23 0.9%	20 0.8%	2,601	8
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.49	1,561 60.1%	793 30.5%	206 7.9%	24 0.9%	15 0.6%	2,599	10
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.38	1,454 55.9%	799 30.7%	254 9.8%	63 2.4%	31 1.2%	2,601	8
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.29	1,332 51.2%	855 32.9%	296 11.4%	78 3.0%	39 1.5%	2,600	9
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.39	1,425 54.9%	834 32.1%	267 10.3%	53 2.0%	17 0.7%	2,596	13
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.33	1,361 52.5%	829 32.0%	316 12.2%	65 2.5%	20 0.8%	2,591	18

III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.21	1,086 41.8%	1,095 42.1%	326 12.5%	58 2.2%	36 1.4%	2,601	8
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.29	1,254 48.2%	955 36.7%	316 12.2%	47 1.8%	27 1.0%	2,599	10
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.36	1,384 53.3%	865 33.3%	277 10.7%	43 1.7%	27 1.0%	2,596	13

IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			51.7%	24.1%	24.1%	0.0%	0.0%	29	2,580
2			45.8%	20.8%	33.3%	0.0%	0.0%	24	2,585
3			45.8%	25.0%	29.2%	0.0%	0.0%	24	2,585



「学生による授業評価アンケート」前期・第2クォーター実施要領

平成28年7月
徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

今年度、前期・第2クォーターにおける標題のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

1. アンケートは**授業担当者が配布し、趣旨・記入方法等を説明**してください。
2. **回収と提出は、原則として授業担当者以外（例：各クラス委員、受講代表者など）が行ってください。**なお、**回収後は直ちに提出するよう指示**ください。
3. アンケート実施期間
平成28年7月12日(火)～7月28日(木)
4. 提出期限：各アンケート実施当日
5. 提出場所：徳島キャンパス 1号館1階 学務入試グループカウンターまたは
25号館6階 教育・研究支援グループ
香川キャンパス 各学部事務室

【記入方法及び注意事項】

1. 他学部の学生が履修している科目がありますが、**区別せずに実施**してください。
2. アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
3. マークシートを学生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入には**HBの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
6. マークシートの「**年度**」「**所属学部**」「**学年**」「**科目コード**」等を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・16
「所属学部」・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
7. 回答には**約15分間**かけてください。
8. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
9. その他 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス藤本（内線：8664）
香川キャンパス田中（内線：7552）

教員各位

FD研究部会

授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）

日頃は、本学のFD活動にご理解ご支援いただき、誠にありがとうございます。また、学生による授業評価アンケートへのご協力、心より感謝申し上げます。

さて、今年度実施しました、前期及び第1クォーター・第2クォーターのアンケート結果がまとまりましたのでお届けいたします。

本学では、平成20年度から学生の授業への取組みや授業内容・方法についてアンケートを取るとともに、その集計結果をもとに「アクションプランシート」を作成し、学生にフィードバックしております。

授業評価アンケートは、学生が教員の授業を評価するだけのものではなく、アンケート結果をもとによりよい授業の在り方を考えていくためのものです。これにより、教員には授業内容の更なる充実、学生には授業への取組みの向上等が期待されているところです。以下の要領でアンケート結果に対するフィードバック「アクションプランシート」の記入をお願いいたします。

- ①封筒の中には、アンケート用紙と集計結果表が入っています。感想の欄は集計されませんので担当の先生でご活用ください。
なお、アンケート用紙は、担当の先生方で1年間（平成29年9月末まで）保管していただき、それ以降は各自で処分してください。
- ②9月8日(木)に各先生方のメールアドレスに、ログインIDとパスワードの案内、アクションプランシート作成依頼のメールが担当業者（教育ソフトウェア）から送られてきます。
- ③メール到着後から、今回のアンケート集計結果と過去のアンケート結果をウェブ上で閲覧でき、経年比較による分析もできます。
- ④アンケート結果の閲覧やアクションプランシートの記入は、送られてきたID・パスワードを入力して、ウェブ上で実行してください。
記入項目は「アンケート結果に対するコメント」「今後の授業に向けて」です。
- ⑤アクションプランシート入力期間：9月8日(木)～9月30日(金)
入力期間を過ぎると入力できなくなるので、ご注意ください。
なお、詳細は操作マニュアル（ログイン画面「ヘルプ」で表示）を参照してください。
- ⑥学生への公開期間：平成28年10月18日(火)～平成28年1月15日(日)
学生は各キャンパス内を見ることができます。

※ご不明な点につきましては、下記の『教育・研究支援グループ』担当まで、連絡をお願いいたします。

徳島キャンパス：藤本（TEL. 088-602-8664 fujimoto-ke@tks.bunri-u.ac.jp）

香川キャンパス：田中（TEL. 087-899-7552 tanaka@kagawa.bunri-u.ac.jp）

アクションプランシート

2016 年度前期 曜日 ()

科目名 : ()

教員名 : ()

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

平成28(2016)年度 前期 研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
5月23日	月	1	保健福祉	人間福祉 1年	哲学A	30670	溝口 隆一	9号館6階 9603教室
6月7日	火	1	保健福祉	理学療法 3年	物理療法学実習	30186	柳澤 幸夫	23号館6階 物理療法室
6月10日	金	4	保健福祉	看護・2年	看護倫理学	30487	森田 敏子	3号館8階 3807
6月16日	木	4	人間生活	児童・3年	国語科教育法	75448	津守 美鈴	9702
6月29日	水	1	人間生活	心理・4年	心理療法演習Ⅱ	75012	高橋 宏之	9号館8階 ゼミ室②
7月1日	金	4	音楽	音楽	合奏A	75147	坂東 久美	25号館4階 マルチメディア室
7月4日	月	2	人間生活	メディアデザ イン1・2年	コンピュータ グラフィックス論Ⅰ・Ⅱ	74640 74901	山城 新吾	25号館4階 マルチメディア室
目標設定型								

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
4月9日	土		文	文学部1年	新入生 宿泊セミナー研修		橋詰 茂、下田 祐輔 原田耕太郎、田子孝仁	香川県立屋島 少年自然の家
4月10日	日		文	文学部1年	新入生 宿泊セミナー研修		橋詰 茂、下田 祐輔 原田耕太郎、田子孝仁	香川県立屋島 少年自然の家
5月24日	火	2	香川薬	薬学・3年	病態生理学2	20186	宋 時栄	121
6月17日	金	1	文	英語英米 3年	イギリス・アメリカ 文学概論Ⅰ	20496	山本 義浩	研究棟3階 講義2
目標設定型								

平成28(2016)年度 後期 研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
9月27日	火	1	保健福祉	人間福祉2年 編入生4年	心理学理論と 心理的支援	30708	江口久美子	25号館10階④
9月27日	火	3	保健福祉	看護	周手術期ケア	30538	福田 和明	3号館6階3607
10月3日	木	2	人間生活	建築デザイン 3年	CAD演習Ⅲ	00034	川村 恭平	2304 CAD室
10月4日	火	3	人間生活	人間生活3年 食物栄養3年	家庭科教育法Ⅲ	30394	竹原 明美	9807
10月6日	木	1	人間生活	心理	学校心理学	74859	生島 博之	9303
11月2日	水	1・2	保健福祉	理学療法	神経障害 理学療法実習	30080	赤澤 直紀	23号館5階 評価実習室
11月16日	水	3	総合政策	総合政策 1年	法学概論	75025	青野 透	23303
11月30日	水	2	人間生活	児童3年	理科教育法Ⅰ	75451	多田 優子	9702, 1601
12月5日	月	4	音楽	音楽1年	音楽療法概論Ⅱ	75243	千葉さやか	5704
12月14日	水	2	薬学	薬学・2年	生理学2	75340	原 貴史	24202
12月19日	月	4	人間生活	食物栄養3年	栄養教育論Ⅱ	75161	小川 直子	3103
12月22日	木	3	短期大	商科2年	経営Ⅱ	74342	松本 哲人	25号館10階①

目標設定型

--	--	--	--	--	--	--	--	--

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
11月16日	水	2	理工	機械創造3年	精密測定	20207	三好 真千	10号館工302
11月18日	金	1	理工	電子情報3年	情報応用工学演習B	20201	小林 郁典	図書館1階 ラーニングcommons
11月19日	土	1	文学	文化財1年	文化財基礎実習 Ⅰ・Ⅱ	20511 20275	中条義輝・橋詰茂 清水真一・古田昇	讃岐本島
11月25日	金	2	香川薬	薬学3年	免疫学1	20427	岩田 誠	121
1月20日	金	3	保健福祉	臨床工学3年	医用画像工学演習	85124	松崎 健司	画像情報学 実習室

目標設定型

1月17日	火	3・4	理工	ナノ物質3年	プロジェクトラボB	20217	水野 貴之	ナノバイオ 実習室
-------	---	-----	----	--------	-----------	-------	-------	--------------

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生 (授業形態)	()		
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観者数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目			
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

平成 28 (2016) 年度
卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成 29 年度 2 月 1 日 (水) ~ 3 月 17 日 (金)
実施人数	学部 912 人 短期大学部 116 人 研究科・専攻科 32 人 合 計 1060 人
回答数・回答率	552 人 52.1%

(回答の選択肢番号の意味)

5. そう思う
4. ややそう思う
3. どちらでもない
2. ややそう思わない
1. そう思わない

2016年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果 (徳島文理大学全体)

徳島文理大学

対象者数	1060
回答者数	552
回答率	52.1%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	226 40.9%	326 59.1%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	82 14.9%	410 74.3%	58 10.5%	2 0.4%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	469 85.0%	31 5.6%	52 9.4%	0 0.0%

あなたの成績について 一番多かったのは	優	良	可	無効
	244 44.2%	208 37.7%	100 18.1%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.07	214 38.8%	224 40.6%	70 12.7%	27 4.9%	17 3.1%	552	0
2	授業や実習内容がわかりやすかったですか	3.86	151 27.4%	256 46.4%	83 15.0%	41 7.4%	21 3.8%	552	0
3	専門的な知識や技能 (免許・資格を含む) を修得できましたか	4.07	230 41.7%	207 37.5%	65 11.8%	26 4.7%	24 4.3%	552	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.09	221 40.0%	214 38.8%	79 14.3%	21 3.8%	17 3.1%	552	0
5	授業以外の指導 (学外実習、見学、補習など) は充実していましたか	3.91	188 34.1%	216 39.1%	88 15.9%	30 5.4%	30 5.4%	552	0
6	課題 (宿題やレポートなど) の量は適切でしたか	3.87	169 30.6%	226 40.9%	96 17.4%	39 7.1%	22 4.0%	552	0

III. 大学の施設および支援体制について

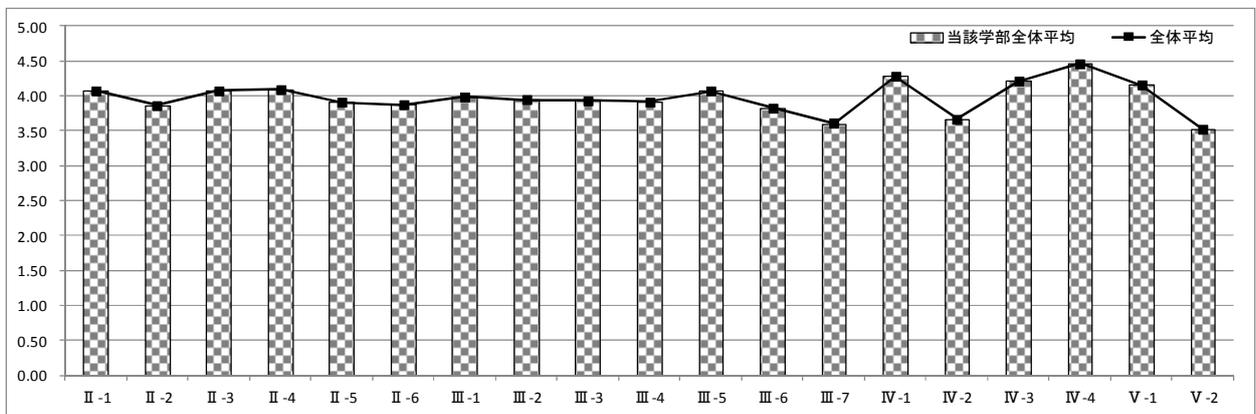
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.98	208 37.7%	208 37.7%	80 14.5%	30 5.4%	26 4.7%	552	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.94	223 40.4%	179 32.4%	85 15.4%	25 4.5%	40 7.2%	552	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.93	204 37.0%	194 35.1%	90 16.3%	42 7.6%	22 4.0%	552	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.91	201 36.4%	199 36.1%	83 15.0%	42 7.6%	27 4.9%	552	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.07	219 39.7%	209 37.9%	84 15.2%	21 3.8%	19 3.4%	552	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.83	205 37.1%	181 32.8%	75 13.6%	49 8.9%	42 7.6%	552	0
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.61	145 26.3%	175 31.7%	142 25.7%	49 8.9%	41 7.4%	552	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.28	273 49.5%	203 36.8%	49 8.9%	12 2.2%	15 2.7%	552	0
2	クラブやサークル活動に参加しやすかったですか	3.67	154 27.9%	183 33.2%	134 24.3%	41 7.4%	40 7.2%	552	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.21	287 52.0%	157 28.4%	66 12.0%	21 3.8%	21 3.8%	552	0
4	よき友と出会えましたか	4.46	372 67.4%	108 19.6%	43 7.8%	12 2.2%	17 3.1%	552	0

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.16	260 47.1%	181 32.8%	70 12.7%	20 3.6%	21 3.8%	552	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.52	158 28.6%	170 30.8%	106 19.2%	37 6.7%	81 14.7%	552	0



対象者数	912
回答者数	485
回答率	53.2%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	213 43.9%	272 56.1%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	15 3.1%	410 84.5%	58 12.0%	2 0.4%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	416 85.8%	24 4.9%	45 9.3%	0 0.0%

あなたの成績について 一番多かったのは	優	良	可	無効
	209 43.1%	180 37.1%	96 19.8%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.07	186	198	63	24	14	485	0
			38.4%	40.8%	13.0%	4.9%	2.9%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.85	130	225	74	38	18	485	0
			26.8%	46.4%	15.3%	7.8%	3.7%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.07	203	179	57	25	21	485	0
			41.9%	36.9%	11.8%	5.2%	4.3%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.08	196	184	71	18	16	485	0
			40.4%	37.9%	14.6%	3.7%	3.3%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	3.91	166	192	73	26	28	485	0
			34.2%	39.6%	15.1%	5.4%	5.8%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	3.84	142	200	87	35	21	485	0
			29.3%	41.2%	17.9%	7.2%	4.3%		

III. 大学の施設および支援体制について

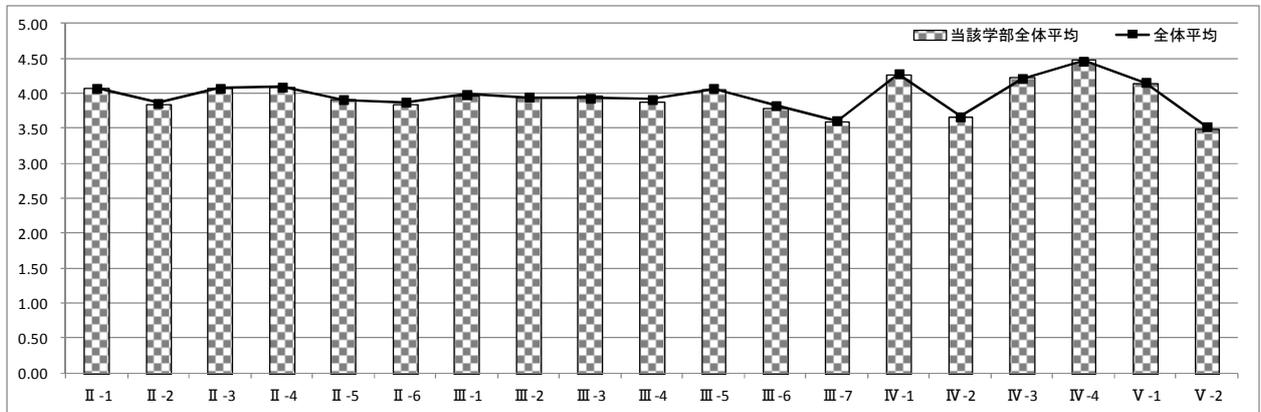
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.96	177	189	66	28	25	485	0
			36.5%	39.0%	13.6%	5.8%	5.2%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.95	199	156	72	22	36	485	0
			41.0%	32.2%	14.8%	4.5%	7.4%		
3	図書館は利用しやすかったですか	3.96	184	174	69	40	18	485	0
			37.9%	35.9%	14.2%	8.2%	3.7%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.88	173	172	75	40	25	485	0
			35.7%	35.5%	15.5%	8.2%	5.2%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.06	193	183	71	19	19	485	0
			39.8%	37.7%	14.6%	3.9%	3.9%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.80	178	157	64	45	41	485	0
			36.7%	32.4%	13.2%	9.3%	8.5%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.60	130	151	121	46	37	485	0
			26.8%	31.1%	24.9%	9.5%	7.6%		

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.27	239	178	43	11	14	485	0
			49.3%	36.7%	8.9%	2.3%	2.9%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.66	138	158	113	40	36	485	0
			28.5%	32.6%	23.3%	8.2%	7.4%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.23	260	131	57	20	17	485	0
			53.6%	27.0%	11.8%	4.1%	3.5%		
4	よき友と出会えましたか	4.48	331	94	35	11	14	485	0
			68.2%	19.4%	7.2%	2.3%	2.9%		

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.15	230	156	61	19	19	485	0
			47.4%	32.2%	12.6%	3.9%	3.9%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.48	139	143	92	36	75	485	0
			28.7%	29.5%	19.0%	7.4%	15.5%		



2016年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果（短期大学部全体）

徳島文理大学

対象者数	116
回答者数	60
回答率	51.7%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	8 13.3%	52 86.7%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	60	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	46 76.7%	7 11.7%	7 11.7%	0 0.0%

あなたの成績について 一番多かったのは	優	良	可	無効
	29 48.3%	27 45.0%	4 6.7%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.03	24 40.0%	23 38.3%	7 11.7%	3 5.0%	3 5.0%	60	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.93	19 31.7%	27 45.0%	8 13.3%	3 5.0%	3 5.0%	60	0
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を 修得できましたか	4.08	23 38.3%	26 43.3%	7 11.7%	1 1.7%	3 5.0%	60	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.08	22 36.7%	26 43.3%	8 13.3%	3 5.0%	1 1.7%	60	0
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は 充実していましたか	3.93	21 35.0%	20 33.3%	15 25.0%	2 3.3%	2 3.3%	60	0
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4.07	23 38.3%	24 40.0%	8 13.3%	4 6.7%	1 1.7%	60	0

III. 大学の施設および支援体制について

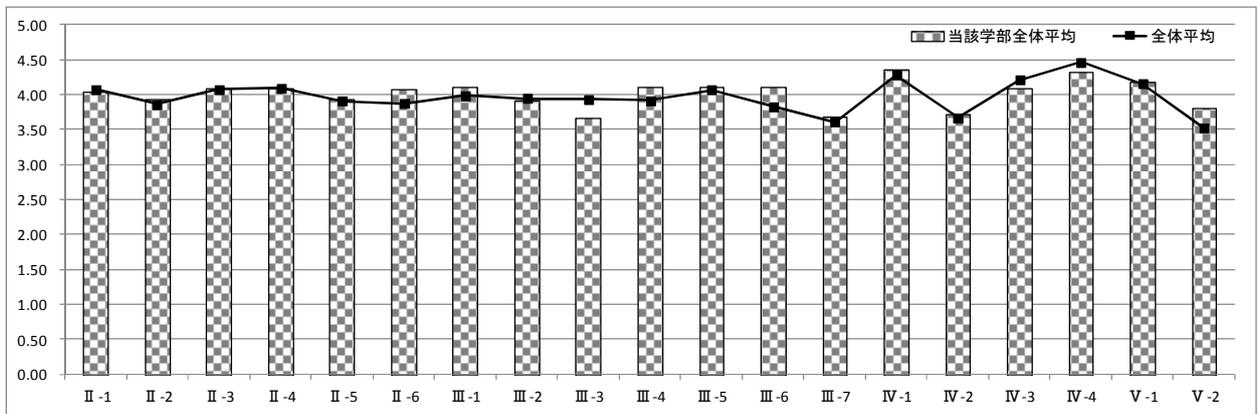
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.12	27 45.0%	17 28.3%	13 21.7%	2 3.3%	1 1.7%	60	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.92	22 36.7%	20 33.3%	12 20.0%	3 5.0%	3 5.0%	60	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.67	16 26.7%	18 30.0%	20 33.3%	2 3.3%	4 6.7%	60	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.10	24 40.0%	24 40.0%	8 13.3%	2 3.3%	2 3.3%	60	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.12	23 38.3%	23 38.3%	12 20.0%	2 3.3%	0 0.0%	60	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.12	25 41.7%	21 35.0%	11 18.3%	2 3.3%	1 1.7%	60	0
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.68	13 21.7%	23 38.3%	19 31.7%	2 3.3%	3 5.0%	60	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.35	30 50.0%	23 38.3%	6 10.0%	0 0.0%	1 1.7%	60	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.72	16 26.7%	20 33.3%	19 31.7%	1 1.7%	4 6.7%	60	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.08	23 38.3%	25 41.7%	9 15.0%	0 0.0%	3 5.0%	60	0
4	よき友と出会えましたか	4.32	36 60.0%	13 21.7%	8 13.3%	0 0.0%	3 5.0%	60	0

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.18	26 43.3%	24 40.0%	7 11.7%	1 1.7%	2 3.3%	60	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.80	18 30.0%	25 41.7%	10 16.7%	1 1.7%	6 10.0%	60	0



2016年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果 (大学院・専攻科全体)

徳島文理大学

対象者数	32
回答者数	7
回答率	21.9%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	5	2	0
	71.4%	28.6%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	7	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	7	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

あなたの成績につ いて一番多かったのは	優	良	可	無効
	6	1	0	0
	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.57	4	3	0	0	0	7	0
			57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.14	2	4	1	0	0	7	0
			28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.43	4	2	1	0	0	7	0
			57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.43	3	4	0	0	0	7	0
			42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	3.57	1	4	0	2	0	7	0
			14.3%	57.1%	0.0%	28.6%	0.0%		
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	4.43	4	2	1	0	0	7	0
			57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%		

III. 大学の施設および支援体制について

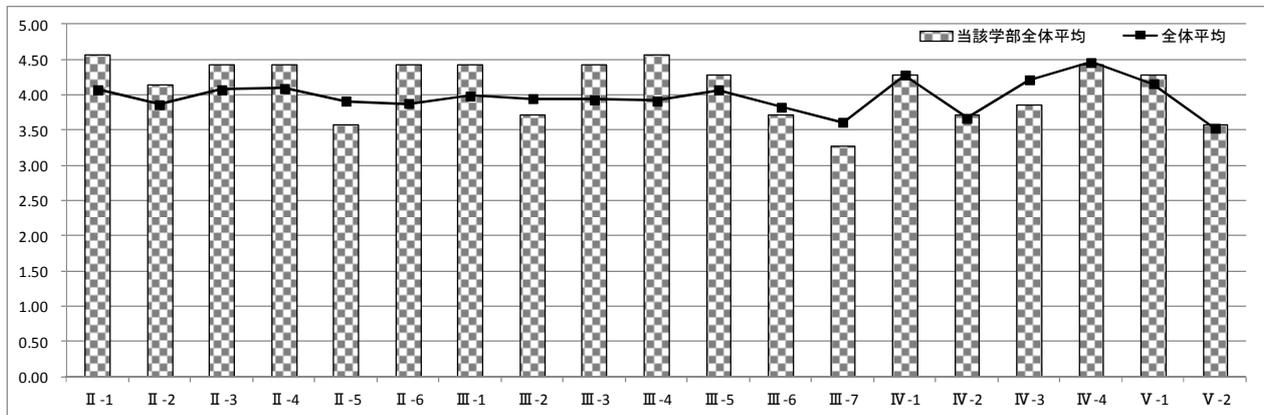
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.43	4	2	1	0	0	7	0
			57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.71	2	3	1	0	1	7	0
			28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.43	4	2	1	0	0	7	0
			57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.57	4	3	0	0	0	7	0
			57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.29	3	3	1	0	0	7	0
			42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.71	2	3	0	2	0	7	0
			28.6%	42.9%	0.0%	28.6%	0.0%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.29	2	1	2	1	1	7	0
			28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%		

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.29	4	2	0	1	0	7	0
			57.1%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.71	0	5	2	0	0	7	0
			0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	3.86	4	1	0	1	1	7	0
			57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%		
4	よき友と出会えましたか	4.43	5	1	0	1	0	7	0
			71.4%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%		

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.29	4	1	2	0	0	7	0
			57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.57	1	2	4	0	0	7	0
			14.3%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%		



5-6

Web による H28 年度卒業生満足度評価アンケートの実施について

I 卒業生満足度評価アンケートの実施について

本学の教育の向上のため、毎年、卒業する学生や大学院生等に対し、本学に対する満足度評価のアンケートを行っております。調査項目は、次の3分野です。

- ①授業・教育課程
- ②大学の施設および支援体制
- ③キャンパスライフ

毎年、ほぼ全員の卒業生が、回答してくれており、おおむねよい評価を受けております。結果は、各先生方にお配りしている「FD研究部会活動報告書」の最後に載せているほか、大学のホームページの「教育・研究支援」の「授業改善活動」の中にも掲載し、一般に公開しています。

この卒業生満足度評価アンケートを、今年度より、理工学部小林先生のご協力のもと、徳島、香川両キャンパスともWeb上で実施することになりました。実施時期は、それぞれの学部学科の事情により異なりますが、すべての卒業生から回答を得るためには、学部学科での周知とご指導が重要となります。お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

II Webでの実施手順

①アンケート実施以前

- ・アンケート実施期間を学部（学科）内で確認してください。
- ・学部（学科）内で、学生への連絡係を決めてください。
- ・連絡係の方はアンケートを開始する日に、学生に回答依頼メールを送付してください。
※学生への回答依頼メール（別紙1）・・・すでにFD委員の先生がお持ちです。
※評価アンケートの内容（別紙2）・・・すでにWeb上に開設しています。
- ・学部担当者の方は、最終的な「担当学部」「アンケート開始日」「アンケート終了日」を記載したメールを、理工学部小林先生（ikunori@fst.bunri-u.ac.jp）まで、お送りください。わからないことがあれば小林先生にご連絡ください。また、小林先生より、その学部（学科）のことについて、学部担当者の方に問合せをすることもあります。

②アンケート実施中

- ・学部（学科）の学生の回答状況を、小林先生より学部担当者の方に週に1度のペースでお知らせします。
- ・その状況をもとに、学部（学科）で適宜、学生に回答依頼メールを送付してください。
※それぞれの学部（学科）における学生の回答率をあげるために、必要な手順です。
ご協力をお願いします。

③アンケート回答の最終締め切り 3月17日

④アンケート終了後

- ・当該者以外の回答が含まれている場合が考えられます。その場合には、小林先生より学部担当者に、確認の問合せをいたします。

お手数ですが、本学の教育の向上のため、アンケート実施へのご協力をよろしくお願いたします。

F D研究部会活動報告書 第8号

平成28年4月～平成29年3月

平成29年4月発行

編集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部F D研究部会		
発行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度 1314-1 電話：087-894-5111(代表)
